

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

SD11 (第212図、第218図1378～228図1455) Ⅲ区旧河道の延長で、9グリッドライン付近でT字に分流する。SD11～SD39の断面図c-d間では黒褐色砂質土第7～12層として現れ、上面を黒褐色・(灰)黄褐色土を基調とするSD39に切り込まれる。同様の黒褐色土層は、東西方向の流路を観察したa-b間では第13～18層、e-f間では第10～17層として現れる。Ⅲ区までの「旧河道・環濠」の切り合い関係上では古い「旧河道」に相当する流路であるが、遺物の取り上げや現場の記録等ではSD11として誤認されており、そのままⅢ区SD11の名称のまま報告することとする。溝幅は2.1m(南北方向)・3.8～4.2m(東西方向)、深さは断面図上で約80cmを測る。埋土は黒褐色砂質土を基調とする。遺物は1378～1455を図示した。IV区SD11の出土遺物は層名で取り上げられているが、どの断面図層位名を用いたものか記録が残っておらず不詳なため、Ⅲ区SD11土層断面図の層位名(第178図)を準用し、適宜IV区SD11の層位名も参考にした。その結果上層(黒褐色系土層:1378～1400・1438～44)・下層(褐色・暗褐色系土層:1401～1437・45～54)に分けて掲載している。1378は口縁部を指頭押圧し小波状口縁を呈する。1385・88は櫛描直線文+縄文を充填し、条痕文系土器の系譜を引くものか。1387は口縁部に指頭押圧による小波状口縁、口縁内面に櫛描波状文+垂下文を施す。以上は中期中葉の小松式に属するもの。1392は後期法仏式期の有段口縁甕で、3条の擬凹線を巡らす。1397はハケによる列点刻みを施すもの。1401・02は条痕文系土器で、1401は条痕地文に山形文を施す。1403は西日本系土器の影響を受けたもので、口縁端部に平坦面を作り、胴部下半はミガキ調整・底部付近にヨコナデを施すもの。1404は条痕文系土器の太頸甕で、頸部にはへう状工具による大ぶりの羽状刺突文が2段以上巡り、その下には棒状工具の連続刺突を2条巡らす。底部には簾状の圧痕が残る。胎土には海綿骨針が見られることから、能登由来の土器と推定される。1405は短頸の甕で、口縁端部を平坦化して刻みを施す。1407は受け口状口縁の甕で、2段の羽状刻みを施し、口縁下端は小波状を呈する。1415は櫛描直線文+三角列点刺突+円形刺突文を施す。1417は壺の同一個体片で、櫛描直線文+波状文を施す。1419は甕口縁部で、口縁端部に刺突状の刻み、櫛描簾状文+直線文+波状文を施すもの。1420は口縁の内外面から刻みを施す。1421は小波状口縁を呈するもの。1422は口縁部をつまみ出し小波頂を作出するもので、櫛描直線文+簾状文+波状文を施す。1424～26は「く」の字口縁の甕。1425は肩部に列点刻みを施す。1432は口縁端部に刻み、内面は櫛描波状文、外面に羽状の斜交文を施す。1434は甕転用甕で、焼成後穿孔である。1435～37は土器片加工の円盤で、1437は不貫通の円孔がある。1438～40・45～51は緑色凝灰岩製の玉素材(石核)。1441・42は砂岩製の砥石。1442は凝灰岩製の石針素材であろうか。1452・53はめのう製の石核で石針の素材。1455は最下層からの出土で建築部材(横桟)。

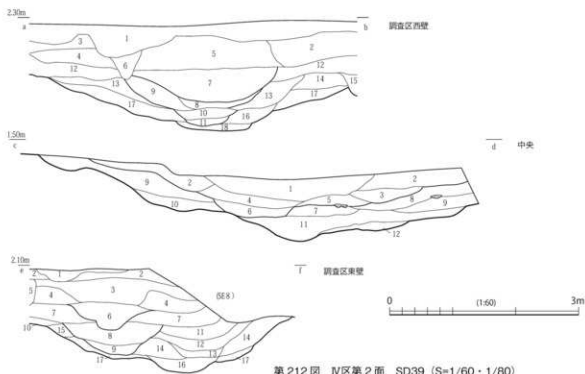
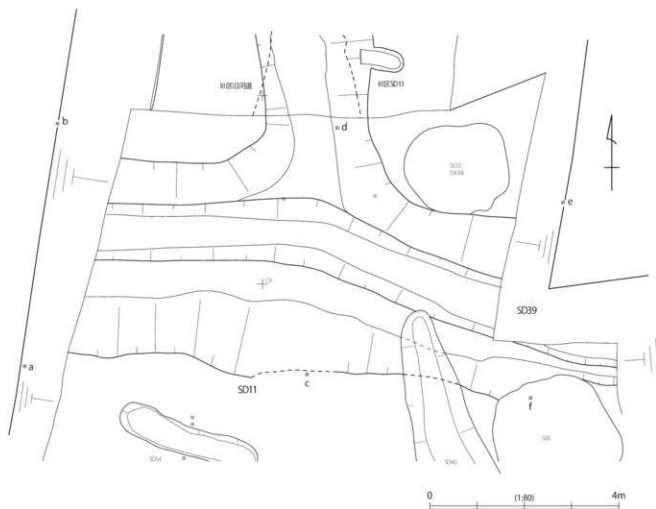
SD39 (第212図、第229図1456～240図1567) IV区北端を東西に流れ、前述のSD11埋没後に再掘削された溝である。a-b・e-f間断面図ではさらにその上層を中世の溝SD38が切り込むことから、もともとSD11東西溝の流路部分が小河川ないし地下水位の高い地形で、埋没を繰り返しながら排水溝(小河川)として機能していたことをうかがわせる。Ⅲ区までの「旧河道・環濠」の切り合い関係上では新しい「環濠」に相当する流路である。溝幅は1.6～2.4m、深さは約50～90cmを測る。埋土は灰黄褐色～褐色砂質土(下層)・黒褐色砂質土(上層)を基調とする。遺物は1456～1567を図示した。土器の配列順は下層(褐色砂)、上層(黒褐色土～砂)、「暗灰砂層」(土層図に層名が見えず不明)、層名無しである。1456～64は下層出土の土器で、中期中葉小松式の土器が主体である。1461は

口縁内外面から刻みを施し小波状口縁を呈するもの。1465～1537は上層出土の土器。1465は条痕地文に山形文を施す条痕文系土器。1466は壺蓋で内外面とも丁寧なハケ調整を施す。1467は壺の口縁部で、下端の線刻が絵画の可能性がある。1469は口縁端部を押圧して小波状口縁を呈するもので、肩部にはハケによる列点刻みを施す。1473は口縁内面に2条の羽状文を巡らし、2個一對の瘤状突起を付する。下端部は棒状工具等による押圧で波状を呈する。1476は無頸壺で、肥厚させた口縁端部には羽状文を施し、2個一對の円孔を作出する。肩部には櫛描直線文+三角列点文を施す。1477～82は壺の底部。1488は櫛描による擬流水文・扇形文を施す。1489は壺頸部に横位のハケナデを密に施し、その下に三角列点文を巡らす。1494は有段口縁の台付壺で口縁内面・体部・台部にミガキ調整を施す。後期法仏式のものか。1495～98・1502・04は口縁端部に刻みや押圧を施す、小波状口縁を呈する甕。1507～09は口縁が「く」の字状を呈する甕。1508は肩部にハケによる列点刻みが巡る。1515は台付甕の底部で、台部には櫛描直線文を施す。1516～1520は後期法仏式～月影式期の有段口縁甕。1518～20は擬凹線が施され、19・20の口縁内面には指頭圧痕が残る。1521～24は高坏で、いずれも外面にミガキを施す。1525～33は鉢類。1530はハケによる羽状刻みを口縁部に巡らす。1533は台付の鉢で、口縁内面を面取りするもの。1534は手捏ね土器。1536・37は土器片加工の円盤で、両者とも中央に円孔を持つ。1538～48は層位不明の暗灰砂層出土土器。1538・40・4は口縁端部に刻みを、1539は斜格子文を施す。1547は有段口縁の小壺で体部をミガキ調整し、有段部に擬凹線を施す。頸部には1対の穿孔を施す。1548は有段口縁の甕で、後期後半の法仏式期。1549～58は出土層位不明のもの。1549は受け口状口縁の壺で口縁端部に刻み、口縁に3条の羽状文を施し、口縁下端は棒状工具の押圧により小波状を呈する。1551・53は口縁端部に斜格子刻みを施すもの。1554は「く」の字状口縁を呈する。1558は台付鉢ないし高坏で、口縁端部の内外に刻みを施す。1559～1562は緑色凝灰岩製の玉素材（石核・未製品）、1563・64は紅褐色片岩製の石鋸。

SD42・SK43（第213図、第240図1568） C8グリッドに位置する。方形に巡る溝SD42と溝に続くSK43で構成される遺構で、内部に柱穴等は未検出なため、方形区画遺構とするのが適切であろう。遺構は長辺5.5+m・短辺5.3mで調査区外東側に延伸する。SD42は幅約0.6m・深さ約0.3mのL字状を呈し、埋土は鈍い黄褐色～暗褐色土を基調とする。SK43は本来SD42の延長と推定される。方形周溝墓SZ1を切り込み、SD40に切られる。遺物は甕1568を図化した。口縁端部に刻みを施すもので、中期小松式期のもの。

方形周溝墓SZ1（第214図、第240図1569～242図1588） C7～C・D8グリッドに位置し、周溝SZ1～SD41（幅約1m・深さ約0.3m）・47・53（幅約0.6m・深さ約0.2m）・55（幅約0.9m・深さ約0.3m）で構成される。東辺は調査区外に伸び未検出。墳丘形状は長方形を呈すると推定され、長軸12.2m・短軸6.3+mを測り、主軸はN12°である。周溝は全周するものと推定され、埋土は黄灰～暗褐色砂質土を基調とする。埋葬施設は検出できず、削平されたと推定される。SD40・42に切られる。遺物は1569～88を図示し、土器は中期小松式期のものが大半を占める。1569・72・73・75は櫛描直線文+波状文を施す。1578・79は口縁端部に刻みを施す。1574・86は条痕文系土器で、86は口縁端部に貝殻による刺突を、口縁部に条痕を施す。1582は緑色凝灰岩製の玉素材、1583はメノウ製の石針石核である。

方形周溝墓SZ2（第215図、第242図1589～1593） C～D7グリッドに位置し、周溝SZ2～SD21（幅約1.5～2.1m・深さ約0.4m）・46・50（幅約0.5m・深さ約0.1m）で構成される。南辺および東辺は調査区外に伸び未検出。墳丘形状は不明、長軸7.8+m・短軸6.0+mを測り、主軸はN13°である。SD21は再掘削されており、周溝埋土は鈍黄褐（旧）・黒褐色（新）砂質土を基調とする。SZ3を切り込み、SD53に切られる。埋葬施設は検出できず、削平されたと推定される。遺物は1589～93を図示し、



第212図 IV区第2面 SD39 (S=1/60・1/80)

SD39 a-b間

- 1 10YR4/1褐色土 耕作土
- 2 10YR4/3にふい黄褐色砂質土 土源片を多く含む 炭粒を多く含む 中世包含層
- 3 10YR4/6褐色砂質土 中世包含層
- 4 10YR4/4褐色砂質土 土源片を含む 炭粒を含む 中世包含層
- 5 10YR5/4にふい黄褐色砂質土 土源片を含む 炭粒を含む 中世包含層
- 6 10YR5/8黄褐色砂質土
- 7 10YR3/3暗褐色砂質土 土源片を多く含む 炭粒を多く含む SD39埋土
- 8 10YR3/1黒褐色砂質土 SD39埋土
- 9 10YR4/1褐色砂質土 SD39埋土
- 10 10YR4/4褐色砂 SD39埋土
- 11 10YR2/2黒褐色シルト質土 SD39埋土
- 12 10YR2/3黒褐色砂質土 弥生時代包含層
- 13 10YR3/1黒褐色砂質土 SD11埋土か?
- 14 10YR3/1黒褐色砂質土 SD11埋土か?
- 15 10YR3/2黒褐色砂質土 SD11埋土か?

- 16 10YR3/4暗褐色砂質土 SD11埋土か?
- 17 10YR4/4褐色砂 SD11埋土か?
- 18 10YR2/1黒色シルト質土 木片を多く含む SD11埋土か?

SD39 c-d間

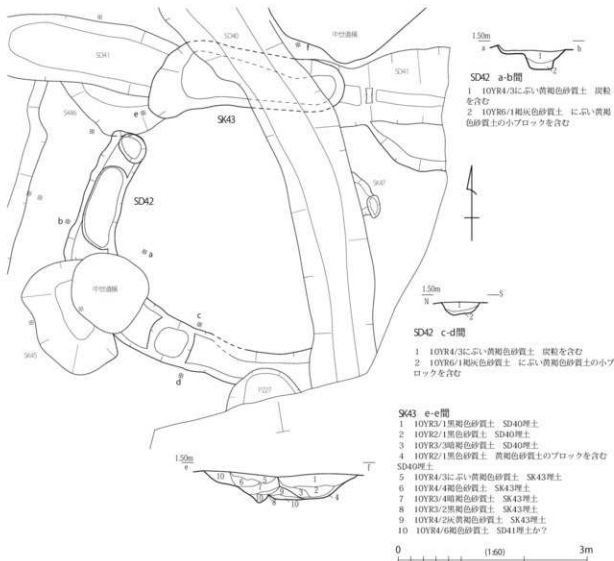
- 1 10YR3/1黒褐色砂質土 炭粒を含む 土源を含む SD39埋土
- 2 0YR3/2黒褐色砂質土 炭粒を含む 土源を含む SD39埋土
- 3 10YR4/3にふい黄褐色砂 SD39埋土
- 4 10YR5/4にふい黄褐色砂 SD39埋土
- 5 10YR3/1黒褐色砂質土 炭粒を含む 土源を含む SD39埋土
- 6 10YR4/2灰黄褐色砂質土 SD39埋土
- 7 10YR2/2黒褐色シルト質土 炭粒を含む 土源を含む SD11埋土
- 8 10YR4/1褐色砂 SD11埋土
- 9 10YR5/3にふい黄褐色砂 SD11埋土
- 10 10YR5/4にふい黄褐色砂 SD11埋土
- 11 10YR3/3暗褐色シルト質土 土源を含む 木片を多く含む SD11埋土

SD39 e-f間

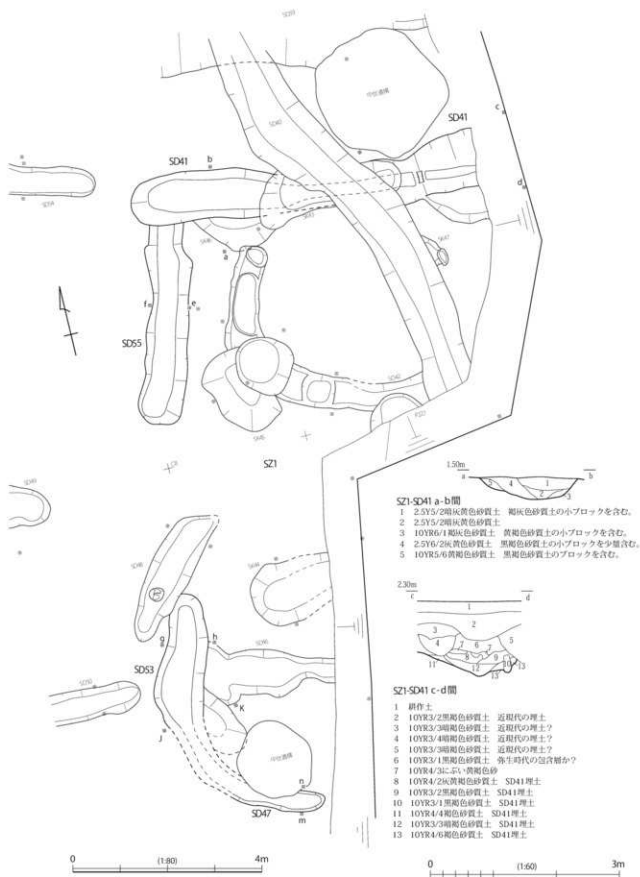
- 1 10YR4/1褐色土 耕作土
- 2 10YR4/2灰黄褐色土 耕作土
- 3 10YR4/3にふい黄褐色土 耕作土
- 4 10YR3/3暗褐色砂質土 中世の包含層か?
- 5 10YR4/4褐色砂質土 SK34埋土
- 6 10YR3/4暗褐色砂質土 SD38埋土
- 7 10YR3/1黒褐色砂質土 弥生時代の包含層か?
- 8 10YR3/2黒褐色砂質土 SD39埋土
- 9 10YR4/1褐色砂 SD39埋土

- 10 10YR5/4にふい黄褐色砂 SD11埋土?
- 11 10YR2/1黒褐色砂質土 炭粒を多く含む 土源片を多く含む SD11埋土か?
- 12 10YR5/1褐色砂質土 炭粒を多く含む 土源片を多く含む SD11埋土か?
- 13 10YR4/1褐色砂 ラミナ状の堆積 SD11埋土か?
- 14 10YR5/2灰黄褐色砂 SD11埋土か?
- 15 10YR5/4にふい黄褐色砂 SD11埋土か?
- 16 10YR3/1黒褐色シルト質土 木片を多く含む SD11埋土か?
- 17 10YR4/3にふい黄褐色砂 SD11埋土か?

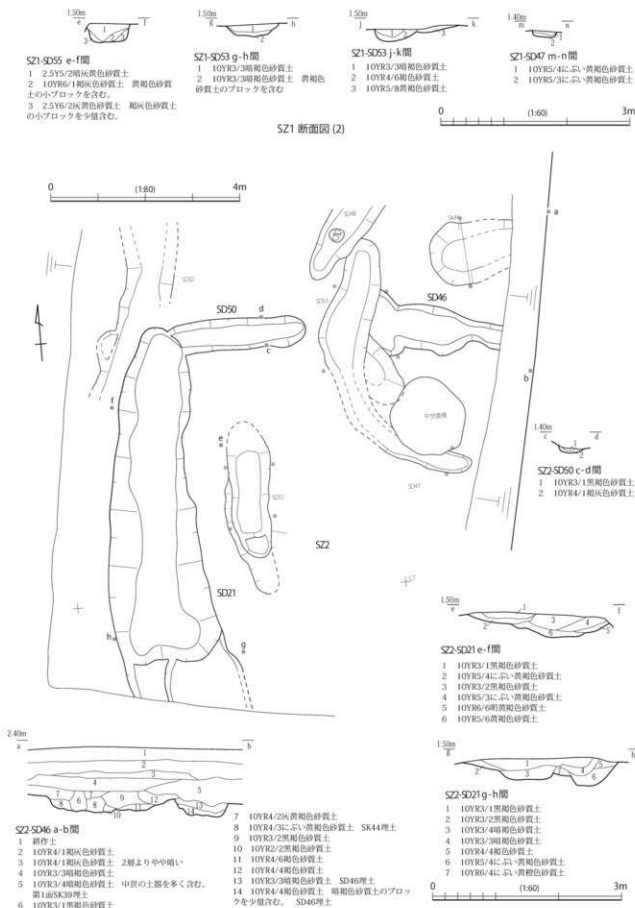
SD39 土層注記



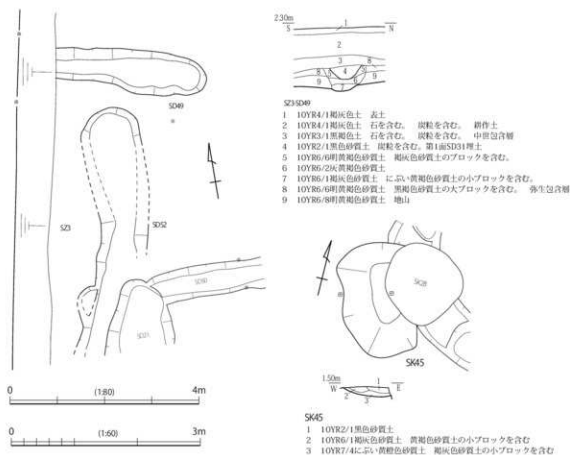
第213図 IV区第2面 SD39・SD42 (S=1/60・1/80)



第214図 IV区第2面 SZ1 (S=1/60・1/80)



第215図 IV区第2面 SZ1・SZ2 (S=1/60・1/80)



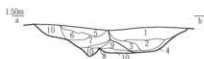
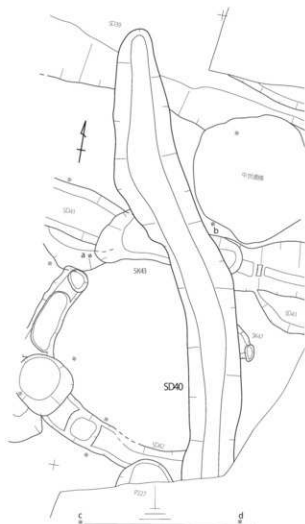
第216図 IV区第2面 SZ3 他 (S=1/60・1/80)

中期小松式のものである。15689は壺の頸部に櫛描直線文を施し、突帯は剥がれている。1591は口縁に櫛描直線文+三角列点文を施す。

方形周溝墓 SZ3 (第216図) D7グリッドに位置し、周溝 SZ3-SD49 (幅約0.8m・深さ約0.2m)・52 (幅約0.9m・深さ約0.2m) で構成され、周溝埋土は黄褐色砂質土を基調とする。東北隅のごく一部のみの検出にとどまり、SZ2-SD21に切られる。主軸はN20°である。遺物は土器小片が出土するが詳細は不明。

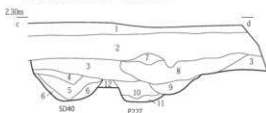
SD40 (第217図、第242図1594～243図1609) C8グリッドに位置し、幅約0.8m・深さ約0.4mを測る。埋土は黒褐色～暗褐色砂質土を基調とし、SD39・SK43 (SD42) を切り込む。1594～1601は中期小松式。1594は受け口状口縁を呈し細かい斜格子刻みを施す。1599は櫛描直線文+波状文+三角列点文を施す。1602～04は有段口縁の壺甕類で、後期法仏式～月影式のもの。1604はほぼ直立する有段口縁部に擬凹線を施し、口縁内面には指頭圧痕が残る月影式の特徴を持つ。1607は甕底部で、底部の円孔は焼成前穿孔である。1608・09は緑色凝灰岩製の玉素材。

SD54 (第217図、第244図1610～1612) D8グリッドに位置し、幅約0.6m・深さ約0.2mを測る。埋土は黄灰～褐色砂質土を基調とする。1610は口縁端部に斜格子刻み、頸部に櫛描直線文を施す壺で、口縁端部内面に1条の沈線を巡らす。中期小松式か。1612は条痕文系土器。



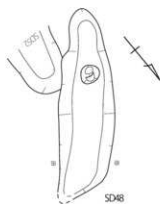
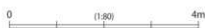
SD40 a-b間

- 1 10YR3/1黒褐色砂質土 SD40埋土
- 2 10YR2/1黒色砂質土 SD40埋土
- 3 10YR3/3暗褐色砂質土 SD40埋土
- 4 10YR2/1黒色砂質土 黄褐色砂質土のブロックを含む SD40埋土
- 5 10YR4/3に黄褐色砂質土 SK43埋土
- 6 10YR4/4褐色砂質土 SK43埋土
- 7 10YR3/4暗褐色砂質土 SK43埋土
- 8 10YR3/2黒褐色砂質土 SK43埋土
- 9 10YR4/2灰黄褐色砂質土 SK43埋土
- 10 10YR4/6褐色砂質土 SD41埋土か?



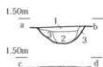
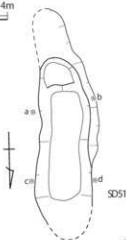
SD40 c-d間

- 1 10YR5/2灰黄褐色砂質土 耕作土
- 2 10YR4/2灰黄褐色砂質土 中世包含層
- 3 10YR3/1黒褐色砂質土 中世包含層
- 4 10YR3/2黒褐色砂質土 SD40埋土
- 5 10YR2/1黒色砂質土 SD40埋土
- 6 10YR3/3暗褐色砂質土 黄褐色砂質土のブロックを含む SD40埋土
- 7 10YR4/2灰黄褐色砂質土
- 8 10YR3/1黒褐色砂質土 中世の土師器を多く含む
- 9 10YR3/1黒褐色砂質土 黄褐色砂質土のブロックを含む
- 10 10YR3/3暗褐色砂質土 P227埋土
- 11 10YR4/2灰黄褐色砂質土 P227埋土
- 12 10YR6/3に黄褐色砂質土



SD48

- 1 10YR4/4褐色砂質土

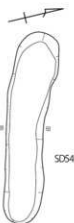


SD51 a-b間

- 1 10YR2/1黒褐色砂質土
- 2 10YR3/2黒褐色砂質土 灰白粘質土の小ブロックを含む
- 3 10YR3/4暗褐色砂質土

SD51 c-d間

- 1 10YR3/1黒褐色砂質土
- 2 10YR3/3暗褐色砂質土
- 3 10YR4/6褐色砂質土

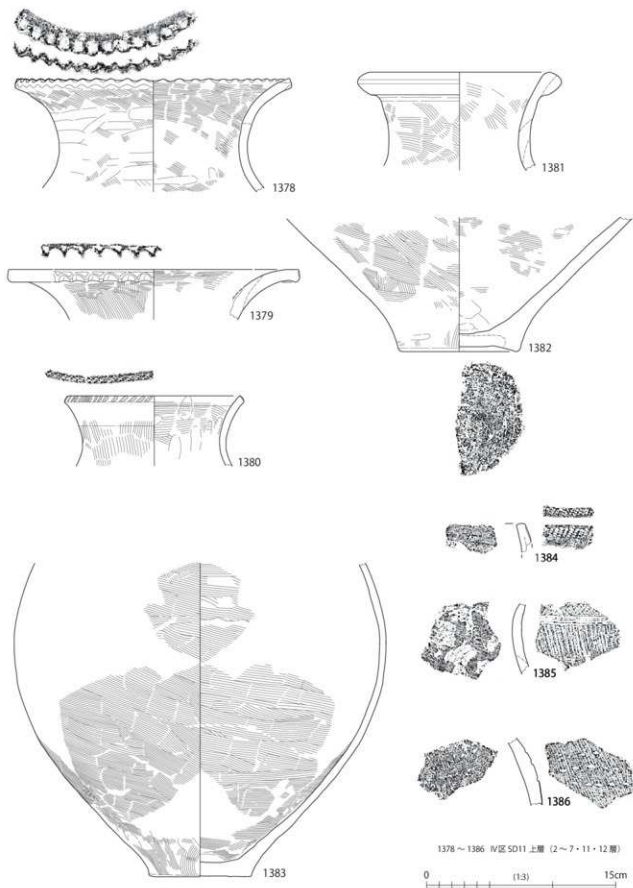


SD54

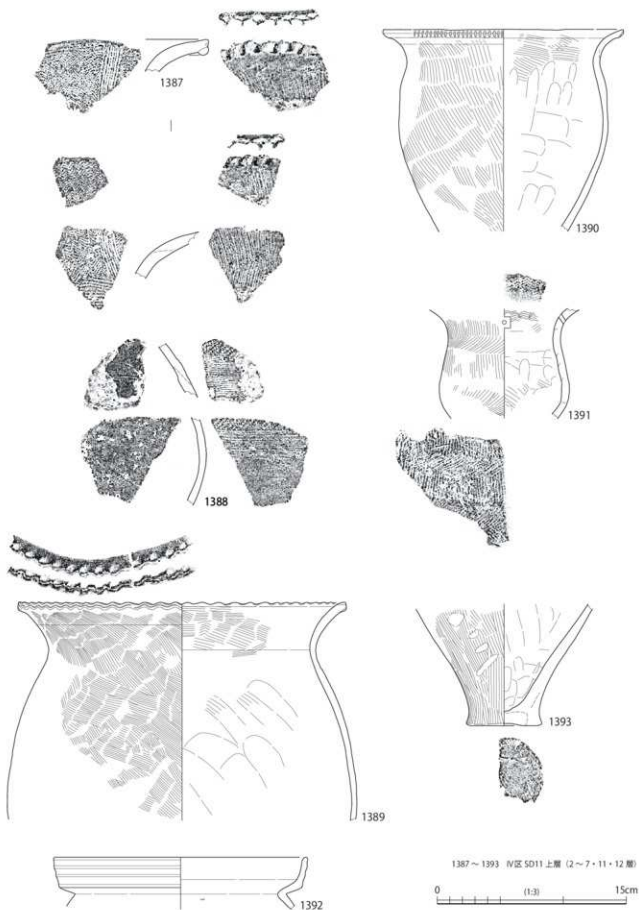
- 1 2.5Y5/2暗灰黄褐色砂質土
- 2 10YR6/1褐色砂質土 黄褐色砂質土の小ブロックを含む



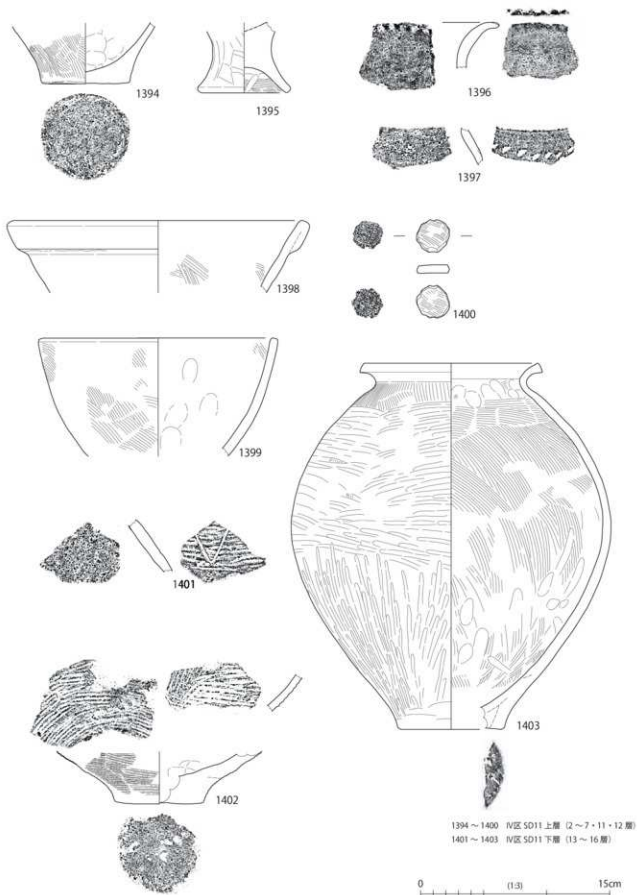
第217図 N区第2面 溝 (S=1/60・1/80)



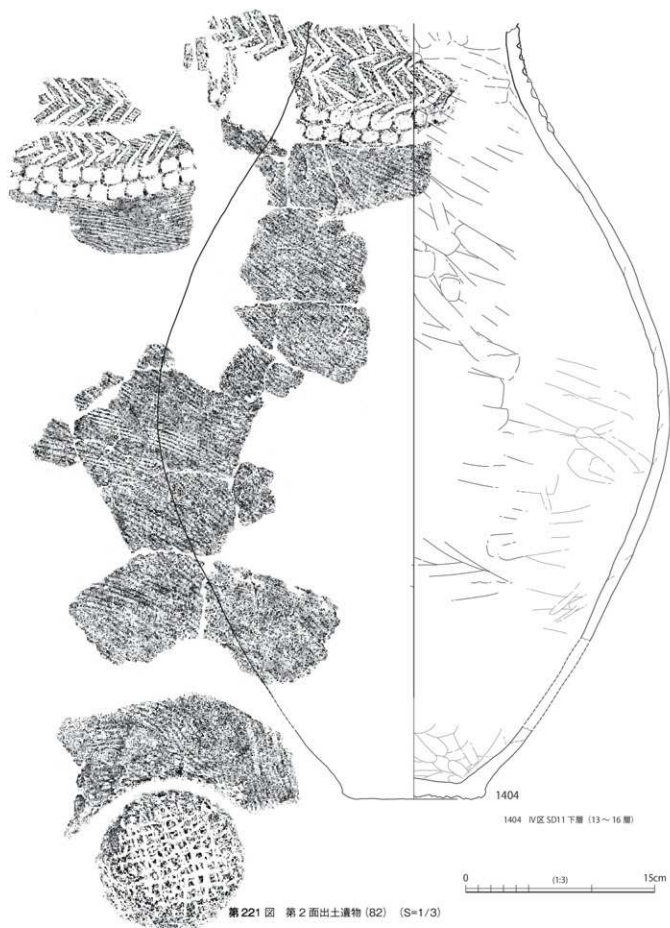
第218図 第2面出土遺物(79) (S=1/3)

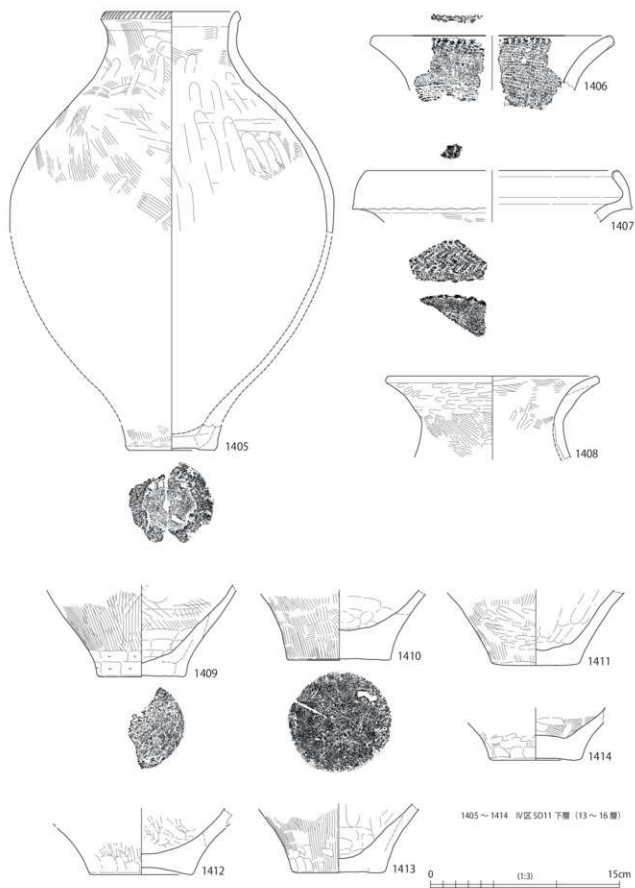


第219図 第2面出土遺物(80) (S=1/3)

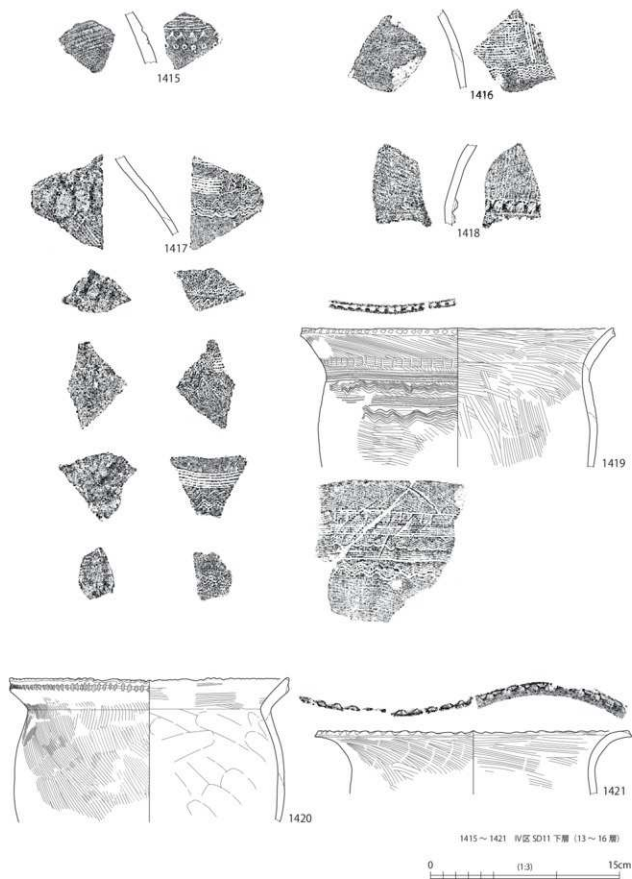


第220図 第2面出土遺物(81) (S=1/3)

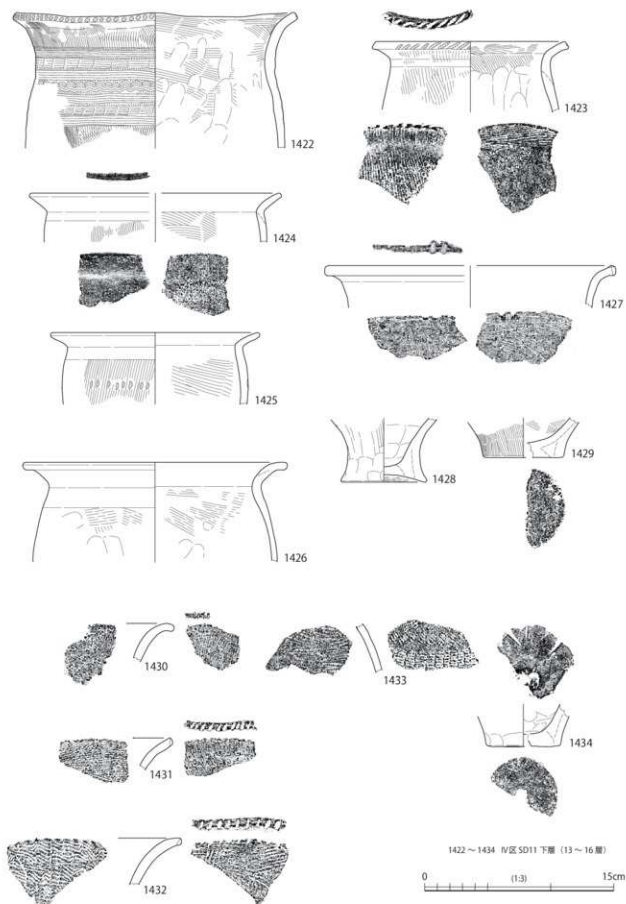




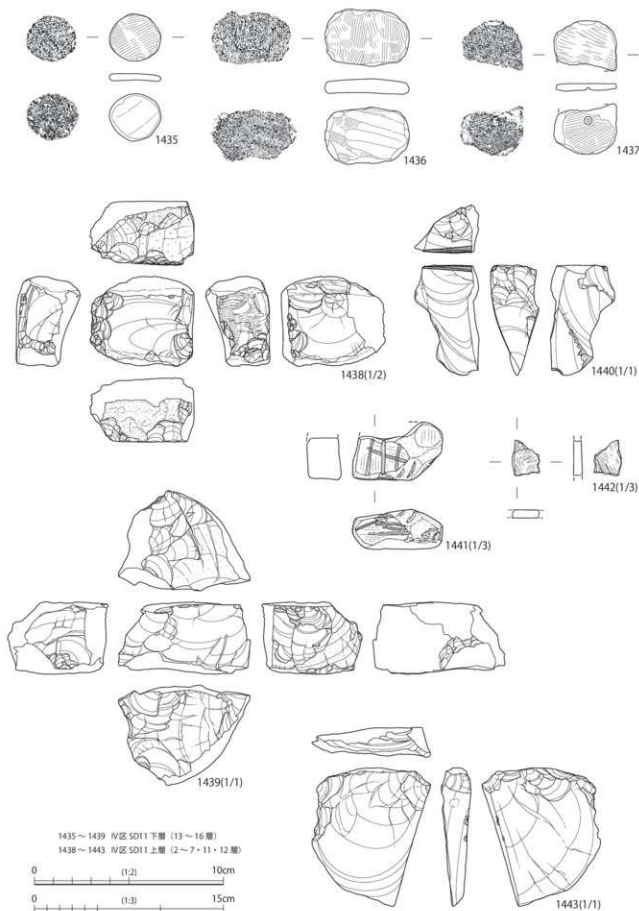
第222図 第2面出土遺物(83) (S=1/3)



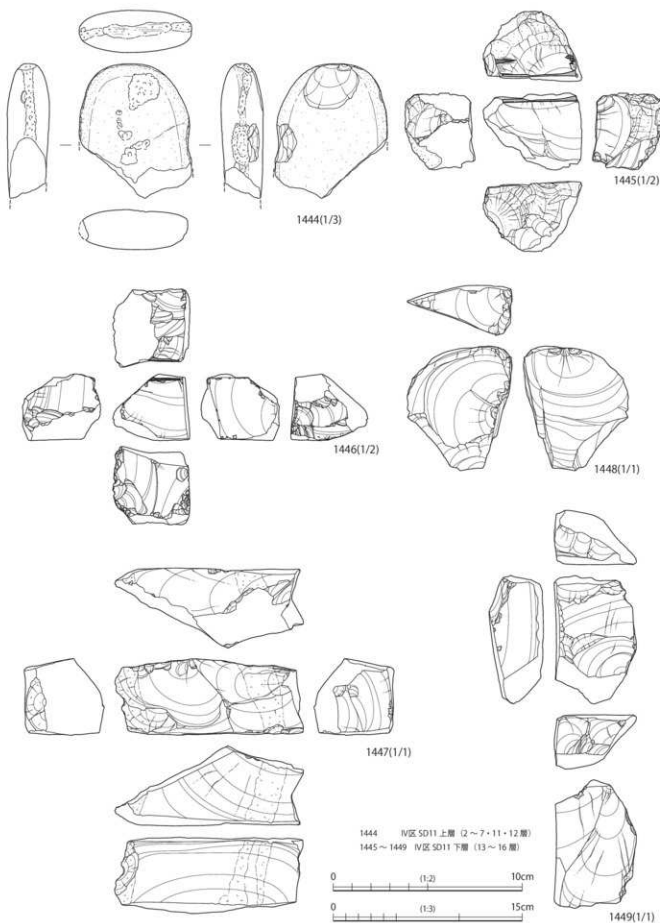
第223図 第2面出土遺物(84) (S=1/3)



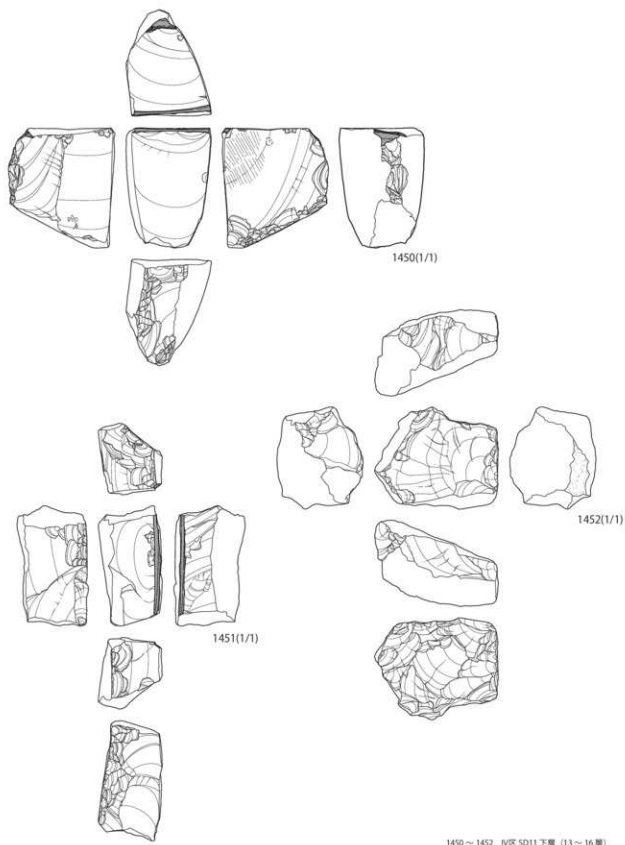
第224図 第2面出土遺物 (85) (S=1/3)



第 225 図 第 2 面出土遺物 (86) (S=1/1・1/2・1/3)

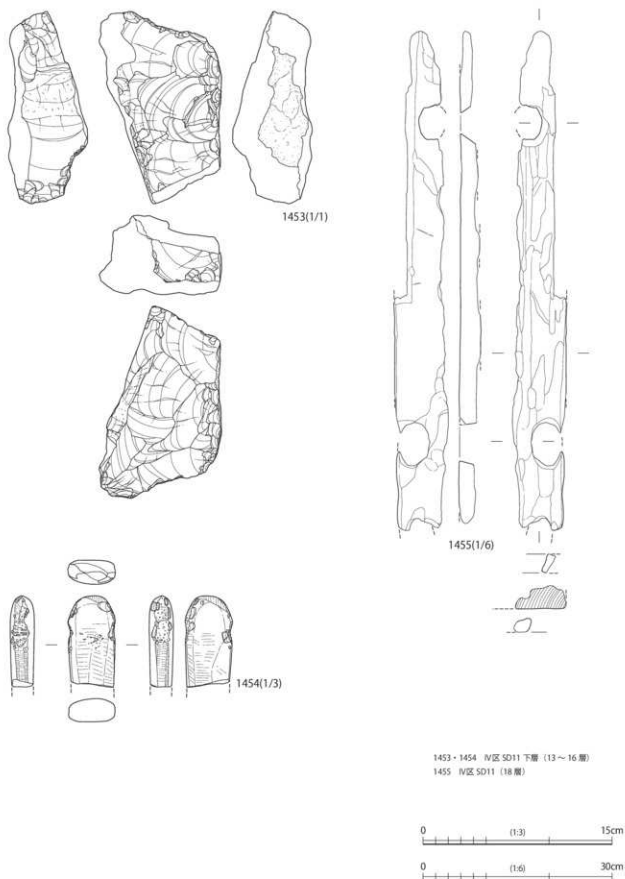


第226図 第2面出土遺物 (87) (S=1/1・1/2・1/3)

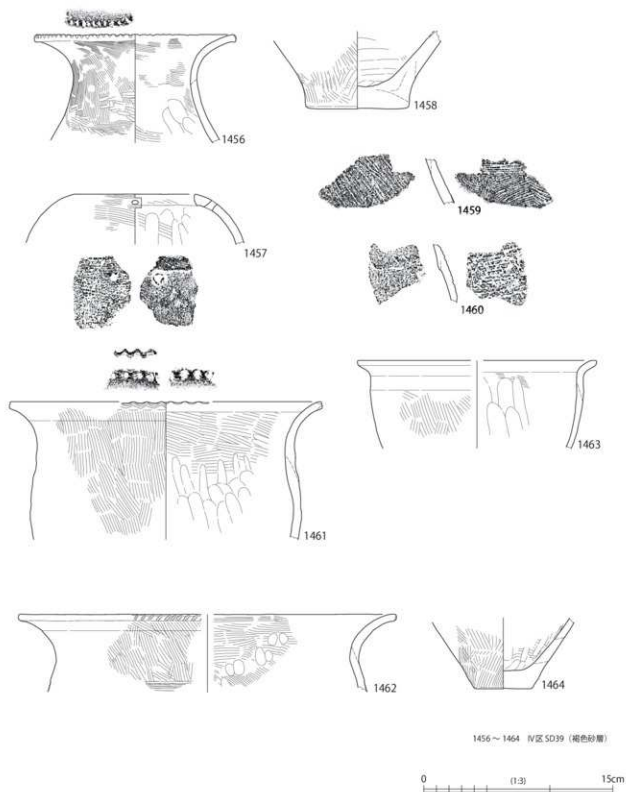


1450～1452 IV区S011下層(13～16層)

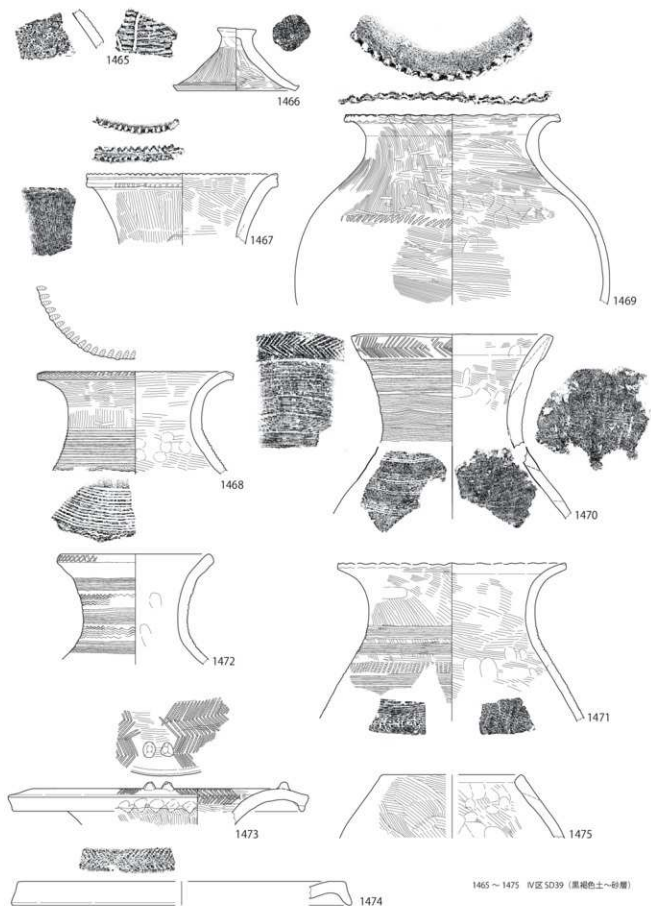
第227図 第2面出土遺物(88) (S=1/1)



第228図 第2面出土遺物(89) (S=1/1・1/3・1/6)

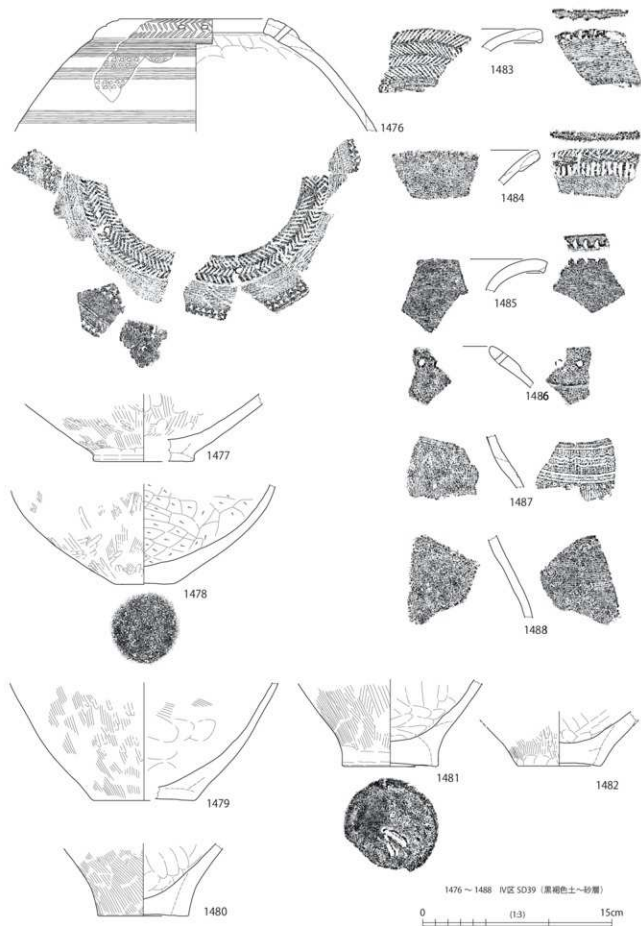


第229図 第2面出土遺物(90) (S=1/3)

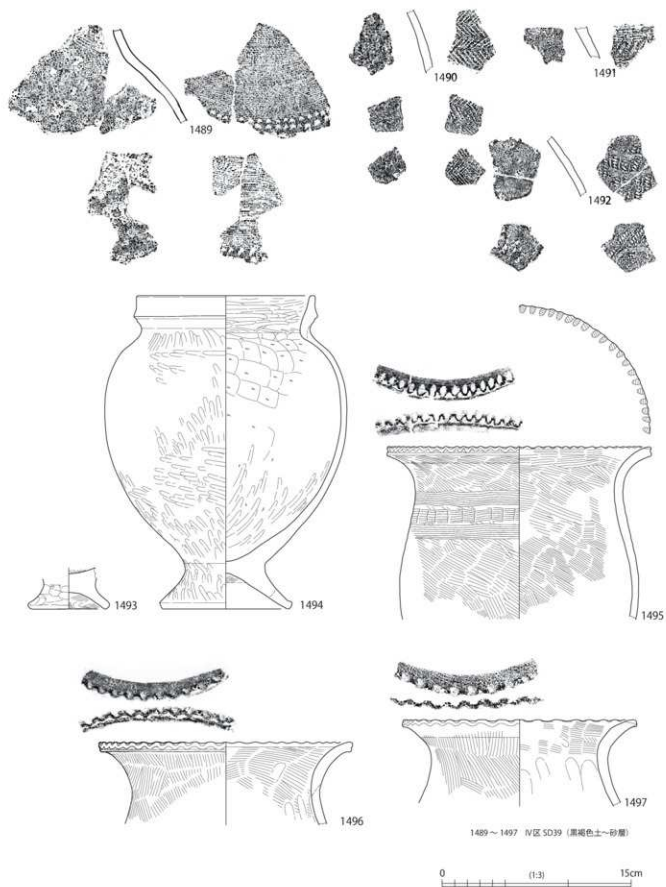


第230図 第2面出土遺物 (91) (S=1/3)

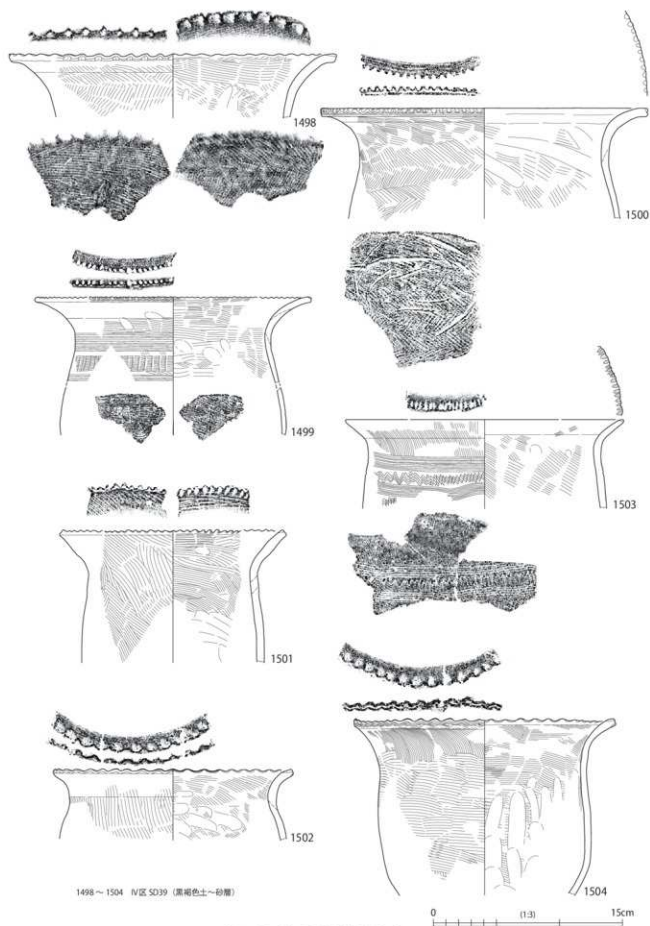
0 (1:3) 15cm



第231図 第2面出土遺物(92) (S=1/3)

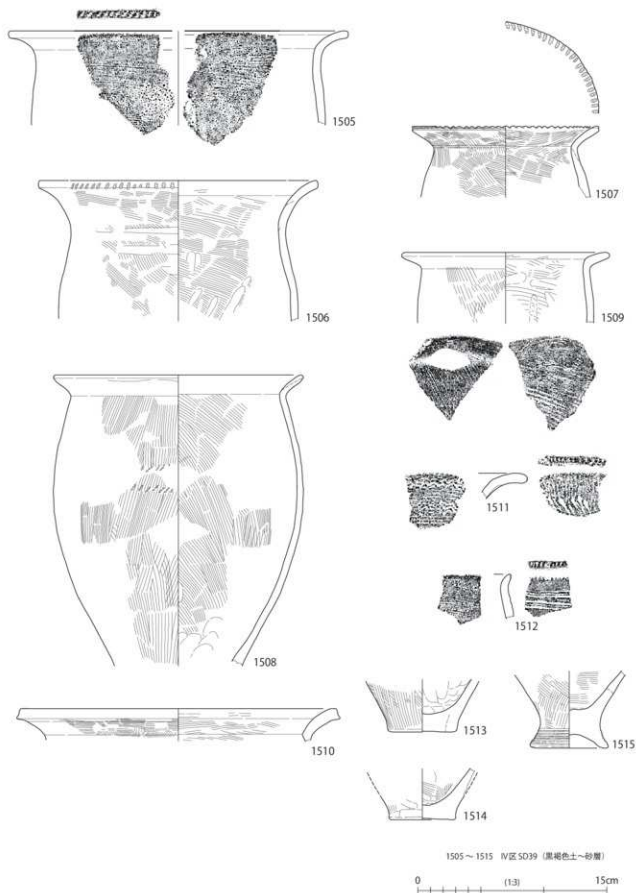


第232図 第2面出土遺物(93) (S=1/3)

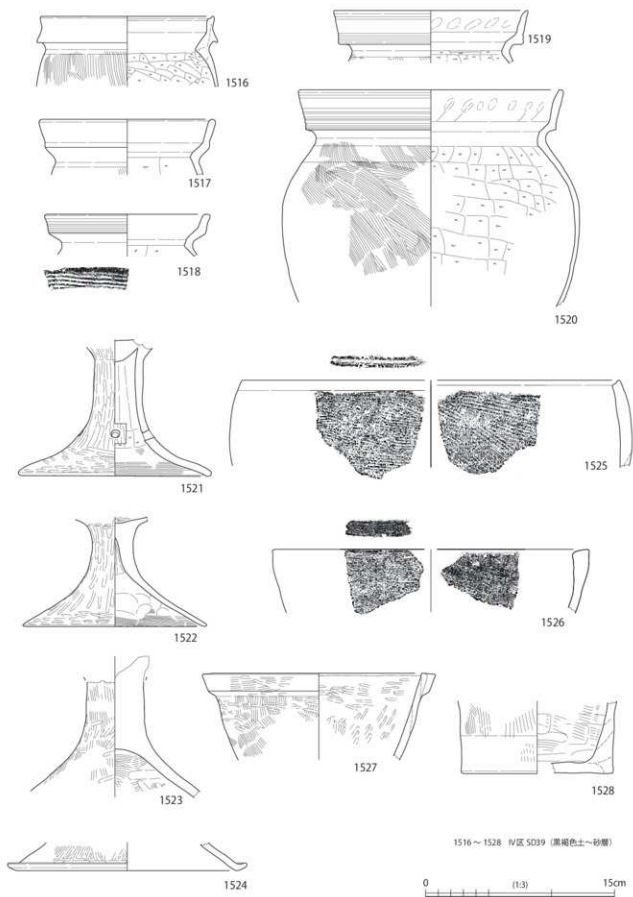


1498～1504 N区 SO39 (黒褐色土～砂層)

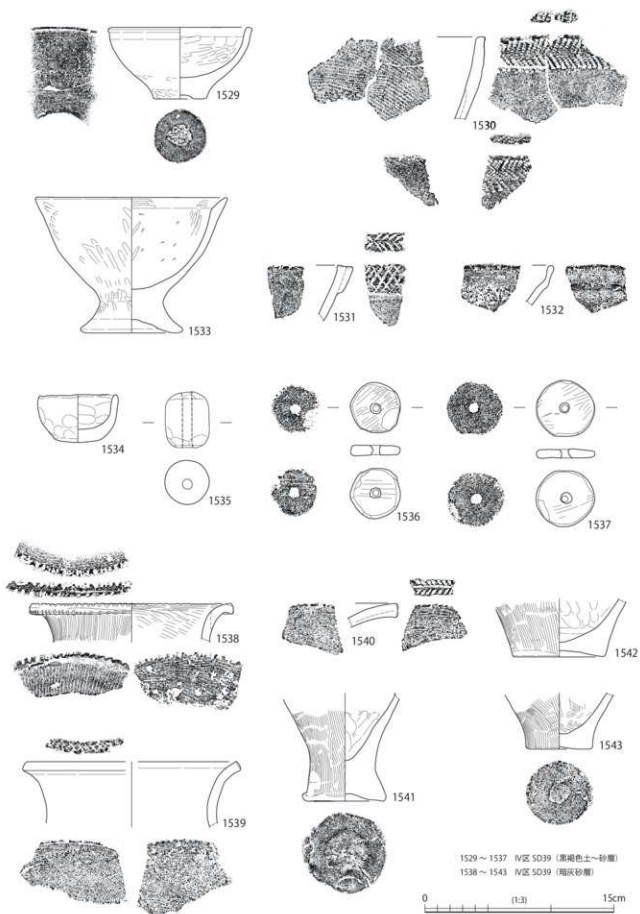
第233図 第2面出土遺物(94) (S=1/3)



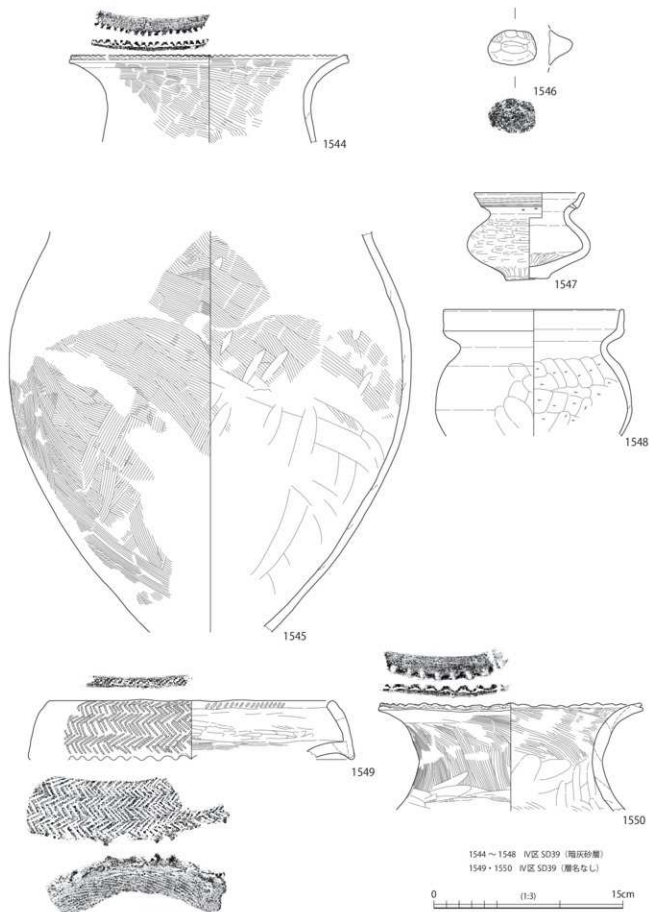
第234図 第2面出土遺物(95) (S=1/3)



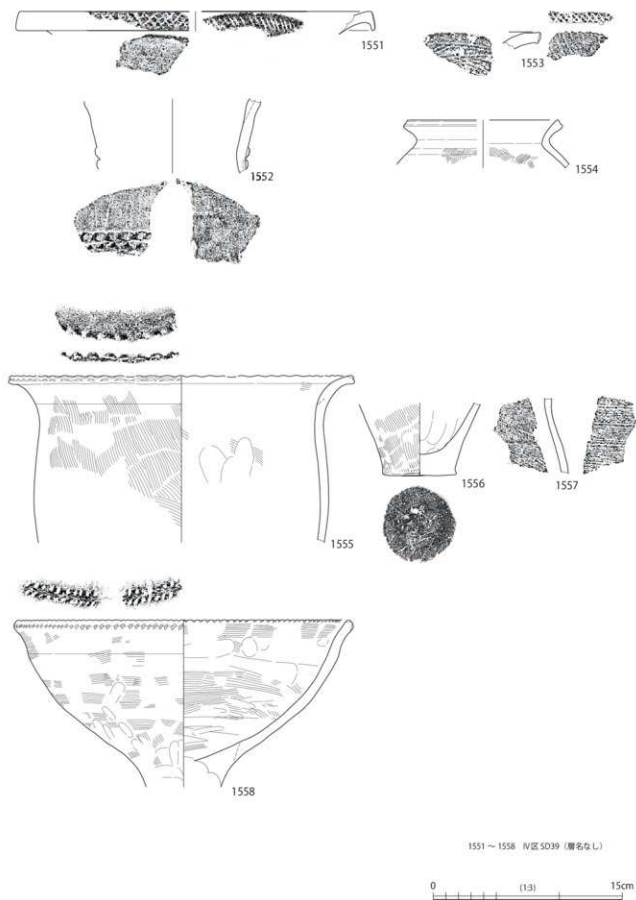
第235図 第2面出土遺物(96) (S=1/3)



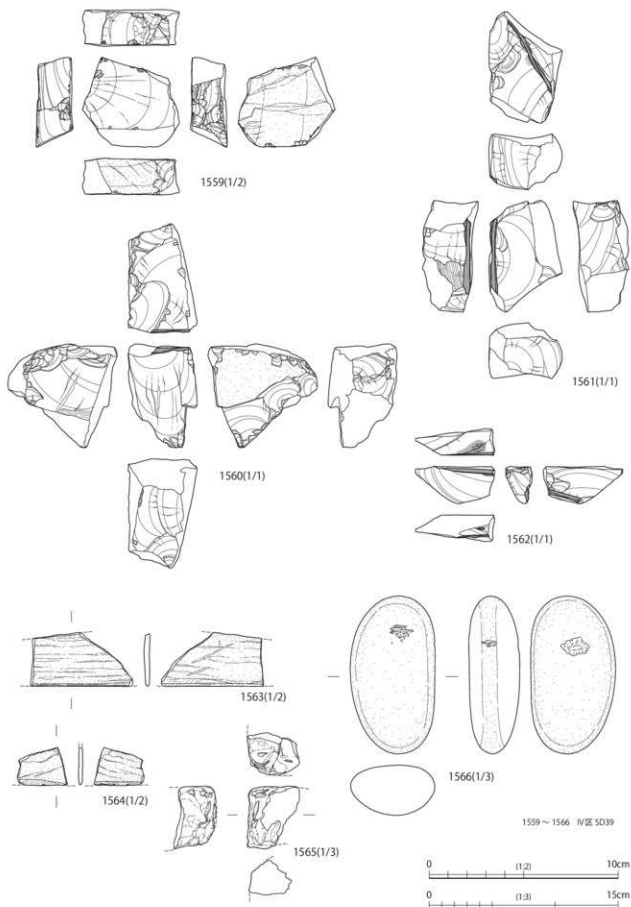
第236図 第2面出土遺物(97) (S=1/3)



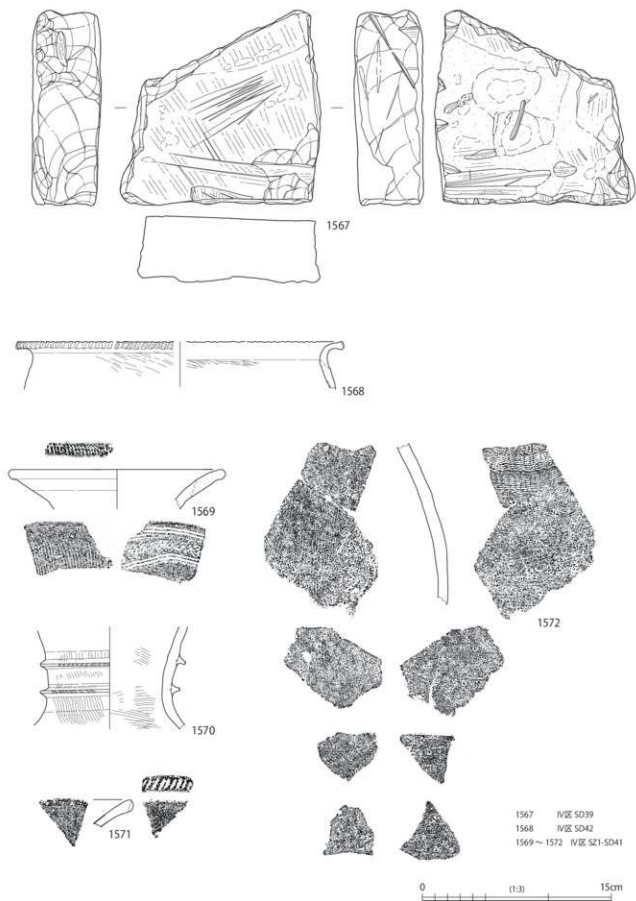
第237図 第2面出土遺物(98) (S=1/3)



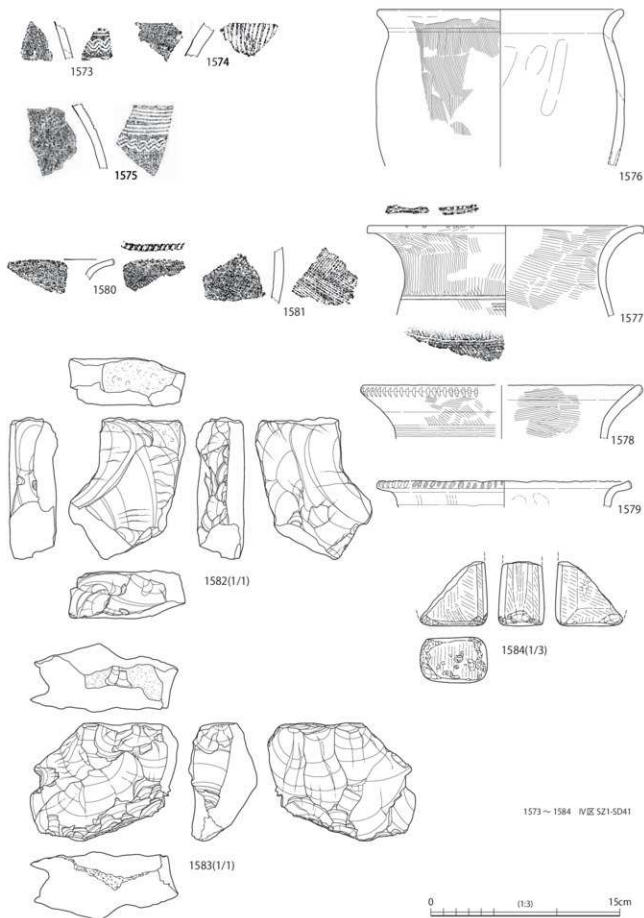
第238図 第2面出土遺物 (99) (S=1/3)



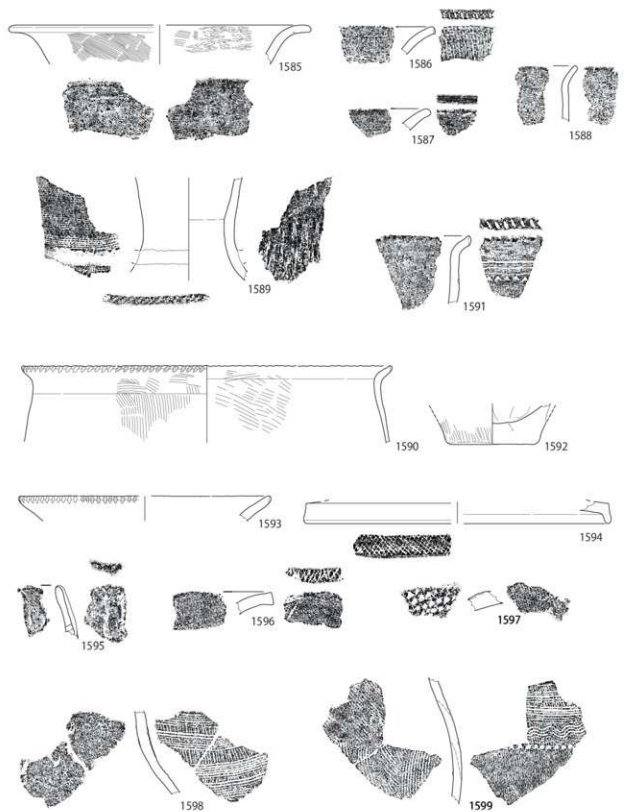
第239図 第2面出土遺物(100) (S=1/1・1/2・1/3)



第240図 第2面出土遺物(101) (S=1/3)



第241図 第2面出土遺物(102) (S=1/1・1/3)

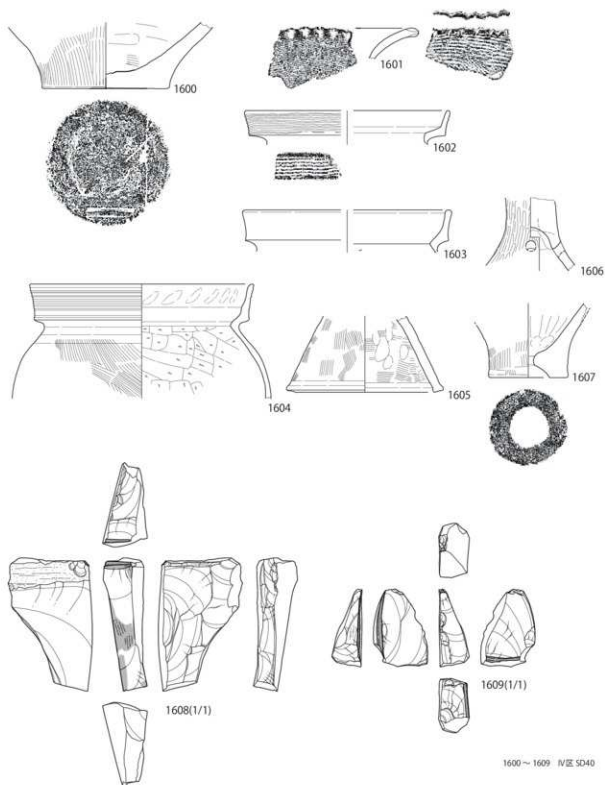


1585 IV区 SZ1-S053
1586～1588 IV区 SZ1-S055
1589～1592 IV区 SZ2-S021

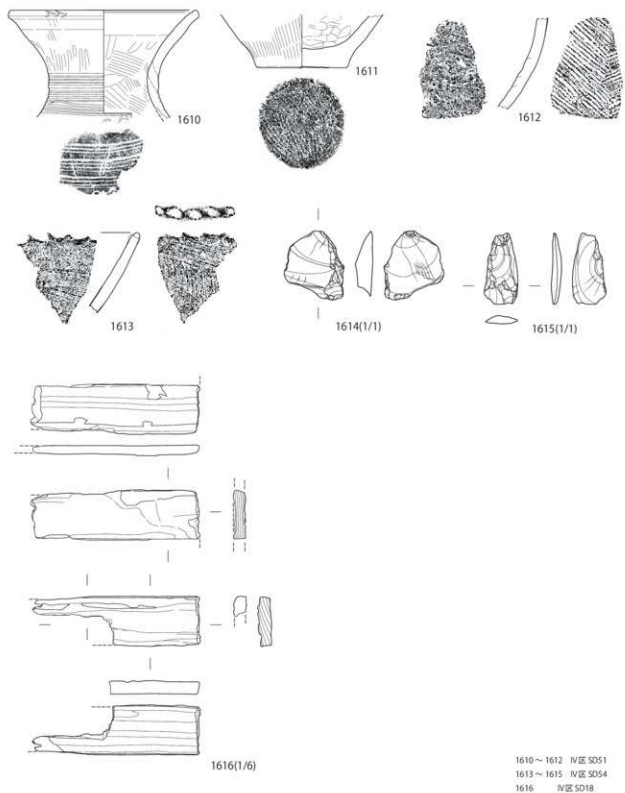
1593 IV区 SZ2-S050
1594～1599 IV区 S040

0 1(3) 15cm

第242図 第2面出土遺物(103) (S=1/3)



第243図 第2面出土遺物(104) (S=1/1・1/3)



第244図 第2面出土遺物(105) (S=1/1・1/3・1/6)



[illegible]

3表 第1面土器觀察表(1)

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

[illegible]

第3表 第1面土器觀察表(2)

第3章 調査の方法と成果

[illegible]

第3表 第1面土器調査表 (2)

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

[illegible]

第3表 第1面土器観察表(6)

[illegible]

第3表 第1面土器觀察表(7)

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

[illegible]

第3表 第1面土器觀察表(8)

第4表 第2面土器觀察表(1)

[illegible]

第4表 第2面土器觀察表(2)

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

[illegible]

第4表 第2面土器觀察表(3)

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

[illegible]

第4表 第2面土器觀察表 (5)

[illegible]

第4表 第2面土器觀察表(6)

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

[illegible]

第4表 第2面土器製客表

[illegible]

第4表 第2面土器観察表 (8)

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

[illegible][illegible]

[illegible]

第4表 第2面土器觀察表(10)

第11節 IV区第2面の遺構・遺物

[illegible]

人事 第2回上 開館商事 (4)

調査 番号	発見 番号	年代	遺構名	タイプ	出土品等	発見所	品類	最大長 (cm)	最大 幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	資料	備考	記録 番号
102	531	3区	1		瓦片等	瓦 (木炭品)	瓦片	1.47	1.02	1.42	4.2	焼物観察所		1301
102	532	3区	1	C10-E3	瓦片等	瓦片	瓦片	3.11	3.25	0.23	17.7	1.8 (記録所?)		1302
102	533	3区	1		遺物等	瓦片 (木炭品)	瓦片	1.98	2.03	1.64	6.8	6.0 (木?)		1303
102	534	3区	1		瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	1.78	1.37	0.49	1.1	6.0 (木?)		1309
102	535	3区	1		瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	3.89	2.52	2.13	14.4	6.0 (木?)		1309
102	536	3区	1	C10-E3	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	6.77	4.43	0.43	140.0	2.0 (木?)		1310
103	537	3区	1		瓦片等	焼物片等・瓦片等	瓦片	16.75	19.30	1.28	180.4	2.0 (木?)		1318
110	626	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	4.4	0.8	0.6	2.1	2.0 (木?)		1629
110	627	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	4.6	0.8	0.4	2.4	2.0 (木?)		1627
115	661	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	3.5	0.3	0.3	0.5	2.0 (木?)		1637
119	687	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	3.6	1.4	0.6	3.4	2.0 (木?)		1630
119	690	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	4.9	0.9	0.6	3.0	2.0 (木?)		1627
119	693	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	3.1	0.8	0.5	1.7	2.0 (木?)		1628
119	694	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	4.7	0.7	0.3	3.6	2.0 (木?)		1629
119	706	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	4.8	2.2	1.3	12.5	2.0 (木?)		1630
119	707	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	3.4	0.9	0.5	1.6	2.0 (木?)		1635
120	711	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	7.5	0.8	0.6	2.6	2.0 (木?)		1635
120	730	3区	1	89	瓦片等	瓦片	瓦片	3.4	0.6	0.6	1.4	2.0 (木?)		1637
120	731	3区	1	C8	瓦片等	瓦片	瓦片	5.0	1.0	0.5	4.0	2.0 (木?)		1637
124	757	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	5.41	6.07	1.33	48.4	2.0 (木?)		1373
124	758	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	4.12	4.75	1.58	41.1	2.0 (木?)		1374
124	759	3区	1	C8	瓦片等	瓦片	瓦片	2.86	2.84	3.34	21.4	2.0 (木?)		1372
124	760	3区	1		瓦片等	瓦片	瓦片	2.18	4.37	1.27	18.6	2.0 (木?)		1371
124	761	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	3.44	2.78	2.81	25.1	2.0 (木?)		1368
124	762	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	2.14	4.05	1.74	25.4	2.0 (木?)		1367
125	763	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	5.69	2.63	0.38	46.8	2.0 (木?)		1367
125	764	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	3.88	3.34	2.12	25.0	2.0 (木?)		1362
125	765	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	2.04	3.04	1.24	6.6	2.0 (木?)		1365
125	766	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	1.15	2.38	1.98	6.6	2.0 (木?)		1375
125	767	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	2.04	2.84	1.19	6.3	2.0 (木?)		1369
125	768	3区	1	C9	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	2.53	2.92	2.08	16.5	2.0 (木?)		1344
125	769	3区	1	C9	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	1.88	3.32	1.27	7.7	2.0 (木?)		1343
126	770	3区	1	C8	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	1.58	1.78	1.06	2.4	2.0 (木?)		1368
126	771	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	1.38	1.27	0.7	1.7	2.0 (木?)		1363
126	772	3区	1	C8	瓦片等	瓦片	瓦片	1.62	0.34	0.43	0.8	2.0 (木?)		1360
126	773	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	1.56	0.41	0.25	0.1	2.0 (木?)		1363
126	774	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	1.88	0.48	0.21	0.2	2.0 (木?)		1368
126	775	3区	1	88	瓦片等	焼物片等・瓦片	瓦片	5.38	1.65	1.62	20.5	2.0 (木?)		1378
126	776	3区	1	C8-E3	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	14.12	13.68	0.58	18.0	2.0 (木?)		1395
126	777	3区	1	C8-E3	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	12.79	12.22	0.63	14.6	2.0 (木?)		1382
126	778	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	14.72	13.80	0.57	13.7	2.0 (木?)		1388
126	779	3区	1	C7	瓦片等	瓦片	瓦片	18.08	3.31	0.88	118.3	2.0 (木?)		1391
126	780	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	4.71	3.48	0.82	17.7	2.0 (木?)		1380
126	781	3区	1	88	瓦片等	瓦片	瓦片	3.65	3.25	2.30	148.7	2.0 (木?)		1387
126	782	3区	1	88	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	14.71	12.48	0.41	13.8	2.0 (木?)		1388
126	783	3区	1	C8	瓦片等	瓦片	瓦片	15.73	12.21	1.06	116.3	2.0 (木?)		1389
141	805	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	1.63	1.41	0.58	1.6	2.0 (木?)		1430
141	806	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	0.71	1.89	0.48	1.6	2.0 (木?)		1431
141	807	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	15.06	4.33	0.96	2.8	2.0 (木?)		1448
141	808	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	13.94	4.09	3.84	72.2	2.0 (木?)		1452
141	809	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	15.93	15.58	0.85	178.4	2.0 (木?)		1442
146	880	1区	2	B18-N10-E7	瓦片等	瓦片等	瓦片等	2.28	4.89	2.67	55.9	2.0 (木?)		1435
147	887	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	1.88	2.51	1.48	4.8	2.0 (木?)		1438
147	888	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	2.24	2.19	1.53	8.6	2.0 (木?)		1437
147	889	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	2.44	3.40	1.59	15.1	2.0 (木?)		1436
147	890	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	1.55	2.15	1.15	6.7	2.0 (木?)		1443
147	891	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	0.78	2.84	0.22	0.8	2.0 (木?)		1451
147	892	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	11.78	14.97	0.19	12.5	2.0 (木?)		1448
147	893	1区	2	B18-N10-E7	瓦片等	瓦片等	瓦片等	18.75	4.33	0.48	188.0	2.0 (木?)		1447
147	894	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	3.14	13.61	1.72	121.9	2.0 (木?)		1449
147	895	1区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	15.28	17.42	0.88	97.1	2.0 (木?)		1453
147	896	1区	2	B18-N10-E7	瓦片等	瓦片等	瓦片等	15.02	14.75	16.71	142.1	2.0 (木?)		1469
157	964	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	13.72	14.22	1.88	125.4	2.0 (木?)		1415
157	965	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	13.32	13.88	0.98	113.4	2.0 (木?)		1417
173	1000	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片	瓦片	3.47	5.04	3.35	65.8	2.0 (木?)		1389
173	1001	3区	2	B18-N7	瓦片等	瓦片	瓦片	3.63	3.08	1.23	17.8	2.0 (木?)		1388
173	1002	3区	2	B18-N7	瓦片等	瓦片	瓦片	1.65	2.30	1.60	6.3	2.0 (木?)		1389
174	1003	3区	2	B18-N7	瓦片等	瓦片	瓦片	4.98	5.07	3.72	77.0	2.0 (木?)		1401
174	1004	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片	瓦片	3.75	3.44	2.18	31.1	2.0 (木?)		1404
174	1005	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片	瓦片	12.62	14.35	0.43	77.5	2.0 (木?)		1418
174	1006	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片	瓦片	1.98	15.20	0.41	6.1	2.0 (木?)		1412
175	1007	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	2.82	2.86	2.43	20.0	2.0 (木?)		1402
175	1008	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	1.58	2.28	1.45	4.2	2.0 (木?)		1405
175	1009	3区	2	B18-E5	瓦片等	焼物片等	焼物片等	16.41	16.36	1.38	182.3	2.0 (木?)		1406
175	1010	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片等	瓦片等	13.95	14.81	0.65	112.8	2.0 (木?)		1407
175	1011	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片	瓦片	4.21	4.99	2.18	88.2	2.0 (木?)		1413
175	1012	3区	2	B18-E5	瓦片等	瓦片	瓦片	11.38	1.26	0.82	2.4	2.0 (木?)		1418
184	1110	3区	2	B18-S6	瓦片等	瓦片等	瓦片等	16.18	5.28	1.47	73.1	2.0 (木?)		1400
185	1178	3区	2	C10-E3	瓦片等	瓦片	瓦片	3.45	5.15	2.61	63.8	2.0 (木?)		1395
185	1179	3区	2	C10-E3	瓦片等	瓦片	瓦片	6.34	6.32	6.27	305.7	2.0 (木?)		1393
185	1180	3区	2	C10-E3	瓦片等	瓦片	瓦片	2.88	2.15	0.87	11.9	2.0 (木?)		1372
185	1181	3区	2	C10-E3-S6	瓦片等	瓦片	瓦片	4.01	4.86	3.49	54.6	2.0 (木?)		1392
186	1182	3区	2	C10	瓦片等	瓦片	瓦片	10.78	15.58	2.29	1444.8	2.0 (木?)		1289
186	1183	3区	2	C10	瓦片等	瓦片	瓦片	4.75	4.65	5.81	118.9	2.0 (木?)		1394
187	1184	3区	2	C10	瓦片等	瓦片	瓦片	6.53	6.89	1.36	41.9	2.0 (木?)		1311
187	1185	3区	2	C10-E3	瓦片等	瓦片	瓦片	4.88	3.40	1.78	27.7	2.0 (木?)		1271
188	1186	3区	2	C10-E3	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	2.00	4.59	2.30	19.3	2.0 (木?)		1304
188	1187	3区	2	C10-E3	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	3.82	1.96	2.20	11.8	2.0 (木?)		1306
188	1188	3区	2	C10-E3	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	2.73	3.45	2.33	14.2	2.0 (木?)		1302
188	1189	3区	2	C10	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	2.49	2.08	1.37	5.2	2.0 (木?)		1312
188	1190	3区	2	C10	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	2.84	3.82	2.65	31.1	2.0 (木?)		1308
189	1191	3区	2	C10	瓦片等	瓦片	瓦片	2.39	2.32	1.44	8.8	2.0 (木?)		1315
189	1192	3区	2	C10-S6-E3	瓦片等	瓦片 (木炭品)	瓦片	2.82	1.99	2.82	11.9	2.0 (木?)		1270
189	1193	3区	2	C10-E3	瓦片等	瓦片	瓦片	14.11	13.77	0.63	114.5	2.0 (木?)		1275
208	1267	3区	2	C10-S6-E3	瓦片等	土層	瓦片	6.67	6.34	4.58	177.3	2.0 (木?)		1290
208	1268	3区	2	C10-E3	瓦片等	土層	瓦片	5.73	6.14	4.82	200.8	2.0 (木?)		1298
208	1269	3区	2	C10-E3	瓦片等	土層	瓦片	3.82	3.45	2.62	3.4	2.0 (木?)		1307
208	1260	3区	2</											

調査 番号	調査 年度	地区	調査期	ブティック	店主兼関係 者	建物 名称	面積 (㎡)	床面積 (㎡)	床高 (㎡)	用途 (主)	材料	備 考	調査 年度
209	1954	昭和	2	C10-381-E3	昭和11	上層	石版	2.18	3.80	0.38	中央(新築等?)		1954
209	1951	昭和	2	C10381-F	昭和11	上層	石版	18.071	17.729	0.340	1951.12 新築		1951
209	1966	昭和	2	C10-E3	昭和11	上層	煉瓦・石膏板	18.560	6.860	0.66	3609.71 新築		1959
210	1967	昭和	2		昭和11	石版	8.28	5.93	5.52	230.9	煉瓦・石膏板		1994
210	1966	昭和	2	C10-E3	昭和11	石・木張(床)	2.19	1.64	1.73	6.6	煉瓦・石膏板		1993
210	1969	昭和	2	B10	昭和11	石・木張(床)	2.72	4.95	2.84	50.8	煉瓦・石膏板		1956
210	1970	昭和	2	C10-E3-E3	昭和11	石・木張(床)	2.96	3.60	1.34	11.2	煉瓦・石膏板		1991
210	1971	昭和	2	C10-E3	昭和11	石・木張(床)	1.10	2.38	0.83	3.3	煉瓦・石膏板		1992
211	1972	昭和	2	B10	昭和11	石・木張(床)	2.55	2.64	2.24	16.7	煉瓦・石膏板		1995
211	1973	昭和	2	C10E3	昭和11	石・木張(床)	3.38	3.38	2.75	7.9	煉瓦・石膏板		1968
211	1974	昭和	2	C10-E3	昭和11	石版	13.380	14.233	2.45	197.1	新築		1933
211	1975	昭和	2	B10	昭和11	石版	0.05	4.27	3.87	298.1	新築		1936
211	1976	昭和	2	C10-E3	昭和11	石版	15.891	17.291	1.16	233.1	新築		1933
225	1456	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・コンクリート	4.75	5.40	3.30	117.8	煉瓦・石膏板		1949
225	1436	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	1.89	3.47	2.63	19.7	煉瓦・石膏板		1953
225	1440	昭和	2	昭和	昭和11	10層	2.90	1.68	1.25	4.6	煉瓦・石膏板		1957
225	1441	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏板	14.621	7.14	3.15	1150.0	新築		1981
225	1442	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	21.871	2.18	0.68	14.9	新築		1468
225	1443	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏・煉瓦・石膏	3.64	3.11	0.77	6.0	新築		1979
226	1444	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・コンクリート	110.641	18.911	3.32	1425.0	新築		1986
226	1445	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	4.05	5.22	3.70	80.1	煉瓦・石膏板		1947
226	1446	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	3.50	4.07	4.12	10.3	煉瓦・石膏板		1948
226	1447	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	2.00	4.97	2.10	24.4	煉瓦・石膏板		1950
226	1448	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏・石膏	3.28	2.76	1.30	8.2	煉瓦・石膏板		1951
226	1449	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	2.16	3.37	1.42	11.6	煉瓦・石膏板		1955
227	1450	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	5.15	2.84	2.80	24.8	新築		1961
227	1451	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	1.68	3.18	1.68	12.9	煉瓦・石膏板		1952
227	1452	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏・石膏	3.26	2.68	2.27	18.8	メノウ		1954
228	1453	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	3.34	3.58	2.10	22.3	メノウ		1968
228	1454	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏・煉瓦・石膏	77.22	3.74	1.08	163.0	新築		1975
239	1556	昭和	2	昭和	昭和11	石版	4.72	5.11	1.93	65.3	煉瓦・石膏板		1948
239	1560	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	2.72	1.81	2.88	13.9	煉瓦・石膏板		1960
239	1561	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏・コンクリート	1.92	2.93	1.45	9.8	煉瓦・石膏板		1961
239	1562	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	6.88	2.88	0.88	3.8	煉瓦・石膏板		1949
239	1563	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	12.84	15.40	0.37	17.8	新築		1963
239	1564	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	12.01	12.64	0.23	22.1	新築		1984
239	1565	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	14.380	14.13	10.20	12.1	新築		1961
239	1566	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	12.49	6.79	4.02	512.0	新築		1979
240	1567	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	15.47	15.81	5.49	1214.8	新築		1977
241	1569	昭和	2	昭和	昭和11	石・木張(床)	3.74	3.06	1.26	15.1	煉瓦・石膏板		1930
241	1569	昭和	2	昭和	昭和11	石・木張(床)	3.13	3.89	1.79	23.9	メノウ		1940
241	1564	昭和	2	昭和	昭和11	石版	15.080	15.303	3.80	1130.9	新築		1960
243	1606	昭和	2	昭和	昭和11	石・木張(床)	3.51	1.18	2.21	7.7	煉瓦・石膏板		1941
243	1609	昭和	2	昭和	昭和11	石・木張(床)	1.42	0.93	0.79	2.5	煉瓦・石膏板		1942
244	1611	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・石膏	1.81	1.86	0.61	7.7	メノウ		1938
244	1615	昭和	2	昭和	昭和11	煉瓦・煉瓦(床)	1.88	2.07	0.26	0.5	新築		1961

第5表 石製品観察表(3)

調査 番号	調査 年度	地区	調査期	ブティック	店主兼関係 者	建物 名称	面積 (㎡)	床 面積 (㎡)	床高 (㎡)	用途	備考	調査 年度
22	48	1.8	1	A10	SE3No.1	煉瓦・石膏	26	10	1	2.6	1560	
22	49	1.8	1	A10	SE3No.2	煉瓦・石膏	26	10	1	2.6	1560	
22	50	1.8	1	A10	SE3No.3	煉瓦・石膏	30	5	1	2.6	1568	
22	51	1.8	1	A10	SE3No.4	煉瓦・石膏	39	10	1	2.6	1604	
22	52	1.8	1	A10	SE3No.5	煉瓦・石膏	38	9	1	2.6	1561	
29	53	1.8	1	A10	SE3No.6	煉瓦・石膏	38	8	1	2.6	1601	
29	54	1.8	1	A10	SE3No.7	煉瓦・石膏	38	7	2	2.6	1602	
29	55	1.8	1	A10	SE3No.8	煉瓦・石膏	38	6	1	2.6	1606	
29	56	1.8	1	A10	SE3No.9	煉瓦・石膏	38	9	1	2.6	1564	
29	57	1.8	1	A10	SE3No.10	煉瓦・石膏	38	10	1	2.6	1566	
29	58	1.8	1	A10	SE3No.11	煉瓦・石膏	38	9	1	2.6	1562	
29	59	1.8	1	A10	SE3No.12	煉瓦・石膏	38	6	1	2.6	1568	
24	60	1.8	1	A10	SE3No.13	煉瓦・石膏	39	6	2	2.6	1600	
24	61	1.8	1	A10	SE3No.14	煉瓦・石膏	39	10	1	2.6	1605	
24	62	1.8	1	A10	SE3No.15	煉瓦・石膏	39	4	1	2.6	1567	
24	63	1.8	1	A10	SE3No.16	煉瓦・石膏	39	8	1	2.6	1603	
24	64	1.8	1	A10	SE3No.17	煉瓦・石膏	39	5	1	2.6	1607	
21	65	1.8	1	B14	SE4	煉瓦	27	12	1	2.6	1572	ア・シ・ロ
21	66	1.8	1	A17	SE4	煉瓦	20	2	1	2.6	1549	
29	76	1.8	1	A10	SE3No.18	煉瓦・石膏	38	17	2	2.6	1574	
29	77	1.8	1	A10	SE3No.19	煉瓦・石膏	21	6	3	2.6	1548	
30	78	1.8	1	A10	SE3No.20	煉瓦・石膏	77	9	3	2.6	1527	
30	79	1.8	1	A10	SE3No.21	煉瓦・石膏	77	11	2	2.6	1501	
30	80	1.8	1	A10	SE3No.22	煉瓦・石膏	77	16	3	2.6	1526	
31	81	1.8	1	A10	SE3No.23	煉瓦・石膏	77	9	2	2.6	1497	
31	82	1.8	1	A10	SE3No.24	煉瓦・石膏	77	10	1	2.6	1511	
31	83	1.8	1	A10	SE3No.25	煉瓦・石膏	76	11	2	2.6	1508	
31	84	1.8	1	A10	SE3No.26	煉瓦・石膏	77	12	2	2.6	1524	
32	85	1.8	1	A10	SE3No.27	煉瓦・石膏	76	9	2	2.6	1520	
32	86	1.8	1	A10	SE3No.28	煉瓦・石膏	77	10	1	2.6	1498	
32	87	1.8	1	A10	SE3No.29	煉瓦・石膏	76	9	2	2.6	1500	
32	88	1.8	1	A10	SE3No.30	煉瓦・石膏	76	12	3	2.6	1513	
32	89	1.8	1	A10	SE3No.31	煉瓦・石膏	77	10	2	2.6	1499	
33	90	1.8	1	A10	SE3No.32	煉瓦・石膏	77	9	2	2.6	1512	
33	91	1.8	1	A10	SE3No.33	煉瓦・石膏	76	12	2	2.6	1521	
33	92	1.8	1	A10	SE3No.34	煉瓦・石膏	76	6	3	2.6	1498	
33	93	1.8	1	A10	SE3No.35	煉瓦・石膏	76	12	2	2.6	1514	
34	94	1.8	1	A10	SE3No.36	煉瓦・石膏	77	14	2	2.6	1529	
34	95	1.8	1	A10	SE3No.37	煉瓦・石膏	77	12	2	2.6	1531	
34	96	1.8	1	A10	SE3No.38	煉瓦・石膏	77	11	2	2.6	1526	
35	97	1.8	1	A10	SE3No.39	煉瓦・石膏	77	12	2	2.6	1523	
35	98	1.8	1	A10	SE3No.40	煉瓦・石膏	78	10	2	2.6	1520	
35	99	1.8	1	A10	SE3No.41	煉瓦・石膏	77	10	3	2.6	1510	
39	100	1.8	1	A10	SE4	煉瓦・石膏	20	7	1	2.6	1573	
41	130	1.8	1	A10	SE3No.42	煉瓦・石膏	10	4	3	2.6	1542	
41	140	1.8	1	A10	SE3No.43	煉瓦・石膏	25	9	1	2.6	1543	
41	141	1.8	1	B16	SE3No.44	煉瓦	10	2	2	2.6	1547	ナ・チ・ロ
41	142	1.8	1	A10	SE3No.45	煉瓦	23	4	3	2.6	1544	ナ・チ・ロ
41	143	1.8	1	A10	SE3No.46	煉瓦	14	1	1	2.6	1545	

第6表 木製品観察表(1)

道路 番号	車線 番号	車道	道路種別	アソッド	注記(道構)	道物	長さ[m]	幅[m]	高さ[m]	材料	単位 番号
42	142	1車	1	A16	9044 道	付	39	24	23	ヤマガタ	1550
54	232	1車	1	B1507	91	側路 側路	38	25	1	スチ	1595
55	233	1車	1	B1507	91	側路 側路	51	17	1	スチ	1593
55	234	1車	1	B1507	91	側路	22	17	2	スチ	1596
55	235	1車	1	B1507	91	側路	88	9	3	スチ	1541
55	236	1車	1	B1507	91	側路	66	6	3	スチ	1542
68	324	1車	1	B10	9131 動物内	動物内	15	14	6	スチ	1593
69	325	1車	1	C1063	9111 9111	動物内	41	13	2	スチ	1594
69	326	1車	1	C1063	9111 9111	動物内側路	49	75	1	スチ	1659
70	326	1車	1	C1063	9131 9131	側路	38	2	1	スチ	1592
70	342	1車	1	B10	9131 9131	側路	21	1	1	スチ	1595
70	341	1車	1	B10	9131 9131	側路	22	1	1	スチ	1598
70	342	1車	1	B10	9131 9131	側路	18	1	1	スチ	1594
70	343	1車	1	B10	9131 9131	側路	17	1	1	スチ	1596
70	344	1車	1	B10	9131 9131	側路	14	1	1	スチ	1593
70	345	1車	1	B10	9131 9131	側路	9	1	1	スチ	1599
70	346	1車	1	B10	9131 9131	側路	8	1	1	スチ	1597
71	348	1車	1	B10	9131 9131	側路	14	1	1	スチ	1590
72	349	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 16	界戸部側路	88	50	4	スチ	1472
73	350	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 14	界戸部側路	101	31	4	スチ	1473
73	350	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 18	界戸部側路	96	40	4	スチ	1471
74	351	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 18	界戸部側路	88	36	3	スチ	1480
75	352	1車	1	C9	9131 9131	側路	87	18	3	スチ	1516
75	353	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 12	界戸部側路	90	24	4	スチ	1478
75	354	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 12	側路	84	12	2	スチ	1536
76	355	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 13	側路	83	13	4	スチ	1479
76	356	1車	1	C1066	9131 9131	側路	93	33	3	スチ	1539
77	357	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 15	界戸部側路	94	34	4	スチ	1483
77	358	1車	1	C9	9131 9131 界戸部	側路	84	12	3	スチ	1540
78	359	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 20	界戸部側路	87	3	4	スチ	1482
78	360	1車	1	C1066	9131 9131	側路	74	12	1	スチ	1539
78	361	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 16	界戸部側路	77	11	1	スチ	1493
79	362	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 17	界戸部側路	91	39	4	スチ	1481
79	363	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 18	界戸部側路	74	10	1	スチ	1485
79	364	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 16	界戸部側路	67	13	1	スチ	1484
80	365	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 11	界戸部側路	97	30	4	スチ	1474
80	366	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 18	界戸部側路	58	14	1	スチ	1482
80	367	1車	1	C9	9131 9131	界戸部側路	79	12	2	スチ	1486
81	368	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 25	界戸部側路	77	18	2	スチ	1484
81	369	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 16	界戸部側路	70	10	1	スチ	1487
81	370	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 16	界戸部側路	88	11	1	スチ	1488
81	371	1車	1	C9	9131 9131	界戸部側路	51	11	1	スチ	1491
81	372	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 16	界戸部側路	37	12	1	スチ	1495
82	373	1車	1	C9	9131 9131	界戸部側路	80	14	1	スチ	1490
82	374	1車	1	C9	9131 9131	側路	36	14	1	スチ	1489
82	375	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 20	界戸部側路	23	12	1	スチ	1477
82	376	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 20	界戸部側路	23	5	1	スチ	1475
82	377	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部	界戸部側路	29	4	1	スチ	1476
82	378	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	57	6	4	スチ	1579
83	379	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	36	6	4	スチ	1580
83	380	1車	1	C1066	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	51	5	4	スチ	1518
83	381	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	91	5	4	スチ	1517
83	382	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	81	4	4	スチ	1535
84	383	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	102	11	9	スチ	1527
85	384	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	106	9	8	スチ	1532
86	385	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	107	9	8	スチ	1533
87	386	1車	1	C9	9131 9131 界戸部 No. 1	側路	102	10	9	スチ	1515
87	387	1車	1	C9	9131 9131	側路	66	6	3	スチ	1534
111	628	1車	1	87	877 界戸部内	側路	18	1	1	スチ	1591
111	629	1車	1	87	877 界戸部内	側路	19	1	1	スチ	1592
111	630	1車	1	87	877 界戸部内	側路	10	1	1	スチ	1590
111	631	1車	1	87	877 界戸部内	側路	12	1	1	スチ	1590
111	632	1車	1	87	877 界戸部内	側路	20	89	1	スチ	1613
112	633	1車	1	87	877 界戸部内	側路	33	80	1	スチ	1612
112	634	1車	1	87	877 界戸部内	側路	12	82	1	スチ	1614
113	635	1車	1	88	887 界戸部内	側路	30	9	1	スチ	1583
114	640	1車	1	88	887 界戸部内	側路	71	7	4	スチ	1596
114	641	1車	1	88	887 界戸部内	側路	82	7	6	スチ	1592
115	642	1車	1	88	887 界戸部内	側路	70	6	7	スチ	1593
115	643	1車	1	88	887 界戸部内	側路	102	3	2	スチ	1590
115	644	1車	1	88	887 界戸部内	側路	103	4	2	スチ	1594
115	645	1車	1	88	887 界戸部内	側路	105	4	3	スチ	1596
115	646	1車	1	88	887 界戸部内	側路	96	3	3	スチ	1598
116	647	1車	1	87	877 界戸部内	側路	40	60	1	スチ	1611
116	648	1車	1	88	887 界戸部内	側路	20	5	1	スチ	1581
117	649	1車	1	87	877 界戸部内	側路	41	48	1	スチ	1610
117	650	1車	1	88	887 界戸部内	側路	97	11	2	スチ	1590
119	660	1車	1	88	887 界戸部内	側路	7	5	1	スチ	1546
157	968	1車	2	81555	81555	側路	42	5	3	スチ	1551
190	1194	1車	2	B10	81555 No. 1	側路	62	17	2	スチ	1597
190	1195	1車	2	B10	81555	側路	41	3	2	スチ	1598
190	1196	1車	2	B10	81555	側路	38	3	3	スチ	1599
191	1197	1車	2	B10	81555	側路	35	7	3	スチ	1578
191	1198	1車	2	C10	81555	側路	33	6	1	スチ	1576
191	1199	1車	2	C10	81555	側路	58	5	2	スチ	1577
191	1200	1車	2	B10	81555 No. 3	側路	24	3	2	スチ	1582
192	1201	1車	2	C10	81555	側路	25	3	2	スチ	1587
192	1202	1車	2	C10	81555	側路	30	3	2	スチ	1588
192	1203	1車	2	C10	81555	側路	27	3	2	スチ	1571
192	1204	1車	2	C10	81555	側路	26	4	2	スチ	1570
192	1205	1車	2	C10	81555	側路	30	7	1	スチ	1569
192	1206	1車	2	C10	81555	側路	42	5	2	スチ	1608
238	1455	1車	2	C9	82011 側路	側路	79	6	3	スチ	1519
244	1518	1車	2	C9	82011 側路 No. 1 (82011)	側路	55	8	3	スチ	1598

第6表 木製品観察表(2)

第4章 自然科学的分析

第1節 分析の概要

園町遺跡の分析調査は、樹種同定、花粉・種実分析、石質同定、放射性炭素年代分析の4件を実施した。樹種・石質同定は、出土した木製品・石製品について行った。花粉・種実分析では、土坑覆土から採取した土壌を対象とし、当時の植生や植物利用について検討した。放射性炭素年代分析では、中世の井戸材対象に実施し、遺構の年代に係る資料を作成した。

なお、関連調査として小松市により当遺跡の遺構基盤層中から出土した自然木の樹種同定・放射性炭素年代分析が実施されており（能城ほか2018）、併せて参照されたい。

第2節 自然科学的分析の結果

1. 樹種同定

出土した木製品144点から、剃刀を用いて木口（横断面）、柃目（放射断面）、板目（接線断面）の3断面について切片を直接採取した。切片をガム・クロラル（抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入してプレバートとした。プレバートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定した。なお、木材組織の名称等は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にした。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にした。

樹種同定結果を第7表に示す。木製品等は、針葉樹3分類群（ヒノキ、アスナロ、スギ）、広葉樹3分類群（カツラ、ヤマグワ、ノリウツギ）とタケ亜科に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・アスナロ *Thuopsis dolabrata* Sieb. et Zucc. ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。住細胞内には茶褐色の樹脂が顕著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・スギ *Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don ヒノキ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科カツラ属

散孔材。道管はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。

分析 番号	報告 番号	出土遺構等	部類	特徴	分析 番号	報告 番号	出土遺構等	部類	特徴	分析 番号	報告 番号	出土遺構等	部類	特徴	分析 番号	報告 番号	出土遺構等	部類	特徴
1	350	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	2	347	Ⅱ区 SK8	溝	土	73	140	Ⅰ区 S236a(遺)	貯蔵	土	109	378	Ⅱ区 SK9	溝	土
2	348	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	3	38	Ⅱ区 SK8	溝	土	74	142	Ⅰ区 S236b(遺)	貯蔵	土	110	379	Ⅱ区 SK9	溝	土
3	349	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	4	39	Ⅱ区 SK8	溝	土	75	143	Ⅰ区 S236c(遺)	貯蔵	土	111	52	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
4	365	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	5	40	Ⅱ区 SK8	溝	土	76	682	Ⅱ区 SK4	下駄	土	112	58	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
5	376	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	6	41	Ⅱ区 SK8	溝	土	77	141	Ⅰ区 S236d(遺)	貯蔵	土	113	40	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
6	377	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	7	42	Ⅱ区 SK8	溝	土	78	77	Ⅰ区 SK5	貯蔵	土	114	36	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
7	379	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	8	43	Ⅱ区 SK8	溝	土	79	46	Ⅰ区 SK4	貯蔵	土	115	40	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
8	353	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	9	44	Ⅱ区 SK8	溝	土	80	146	Ⅰ区 S240	貯蔵	土	116	37	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
9	355	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	10	45	Ⅱ区 SK9	溝	土	81	965	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	117	42	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
10	351	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	11	46	Ⅱ区 SK9	溝	土	82	339	Ⅱ区 SK9	溝	土	118	50	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
11	362	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	12	47	Ⅱ区 SK9	溝	土	83	344	Ⅱ区 SK9	溝	土	119	50	Ⅰ区 SK3	貯蔵	土
12	359	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	13	48	Ⅱ区 SK9	溝	土	84	347	Ⅱ区 SK9	溝	土	120	631	Ⅱ区 SK7	溝	土
13	357	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	14	49	Ⅱ区 SK9	溝	土	85	345	Ⅱ区 SK9	溝	土	121	628	Ⅱ区 SK7	溝	土
14	368	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	15	50	Ⅱ区 SK9	溝	土	86	343	Ⅱ区 SK9	溝	土	122	629	Ⅱ区 SK7	溝	土
15	363	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	16	51	Ⅱ区 SK9	溝	土	87	348	Ⅱ区 SK9	溝	土	123	233	Ⅱ区 SK1	貯蔵	土
16	367	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	17	52	Ⅱ区 SK9	溝	土	88	341	Ⅱ区 SK9	溝	土	124	325	Ⅱ区 SK7	貯蔵	土
17	369	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	18	53	Ⅱ区 SK9	溝	土	89	345	Ⅱ区 SK9	溝	土	125	232	Ⅱ区 SK1	貯蔵	土
18	370	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	19	54	Ⅱ区 SK9	溝	土	90	347	Ⅱ区 SK9	溝	土	126	234	Ⅱ区 SK1	貯蔵	土
19	374	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	20	55	Ⅱ区 SK9	溝	土	91	648	Ⅱ区 SK8	貯蔵	土	127	1194	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土
20	373	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	21	56	Ⅱ区 SK9	溝	土	92	1200	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	128	1616	Ⅱ区 SK18	貯蔵	土
21	371	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	22	57	Ⅱ区 SK9	溝	土	93	638	Ⅱ区 SK8	貯蔵	土	129	324	Ⅱ区 SK1(貯)	貯蔵	土
22	366	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	23	58	Ⅱ区 SK9	溝	土	94	1195	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	130	60	Ⅱ区 SK3	貯蔵	土
23	361	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	24	59	Ⅱ区 SK9	溝	土	95	1196	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	131	53	Ⅱ区 SK3	貯蔵	土
24	364	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	25	60	Ⅱ区 SK9	溝	土	96	630	Ⅱ区 SK7	貯蔵	土	132	54	Ⅱ区 SK3	貯蔵	土
25	372	Ⅱ区 SK9	井戸跡	掘削	26	61	Ⅱ区 SK9	溝	土	97	1201	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	133	63	Ⅱ区 SK3	貯蔵	土
26	86	Ⅰ区 SK5	井戸跡	掘削	27	62	Ⅱ区 SK9	溝	土	98	1202	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	134	51	Ⅱ区 SK3	貯蔵	土
27	81	Ⅰ区 SK5	井戸跡	掘削	28	63	Ⅱ区 SK9	溝	土	99	1203	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	135	61	Ⅱ区 SK3	貯蔵	土
28	92	Ⅰ区 SK5	井戸跡	掘削	29	64	Ⅱ区 SK9	溝	土	100	1204	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	136	55	Ⅱ区 SK3	貯蔵	土
29	91	Ⅰ区 SK5	井戸跡	掘削	30	65	Ⅱ区 SK9	溝	土	101	1205	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	137	64	Ⅱ区 SK3	貯蔵	土
30	87	Ⅰ区 SK5	井戸跡	掘削	31	66	Ⅱ区 SK9	溝	土	102	120	Ⅰ区 S236(遺)	貯蔵	土	138	1206	Ⅱ区 SK21	貯蔵	土
31	79	Ⅰ区 SK5	井戸跡	掘削	32	67	Ⅱ区 SK9	溝	土	103	102	Ⅰ区 SK6	貯蔵	土	139	326	Ⅱ区 SK1(貯)	貯蔵	土
32	640	Ⅱ区 SK8	溝	土	33	68	Ⅱ区 SK9	溝	土	104	76	Ⅰ区 SK5	貯蔵	土	140	649	Ⅱ区 SK8	貯蔵	土
33	641	Ⅱ区 SK8	溝	土	34	69	Ⅱ区 SK9	溝	土	105	65	Ⅰ区 SK4	貯蔵	土	141	647	Ⅱ区 SK8	貯蔵	土
34	644	Ⅱ区 SK8	溝	土	35	70	Ⅱ区 SK9	溝	土	106	1198	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	142	633	Ⅱ区 SK7	貯蔵	土
35	639	Ⅱ区 SK8	溝	土	36	71	Ⅱ区 SK1	溝	土	107	1199	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	143	632	Ⅱ区 SK7	貯蔵	土
36	643	Ⅱ区 SK8	溝	土	37	72	Ⅱ区 SK1	溝	土	108	1197	Ⅱ区 田河通	貯蔵	土	144	634	Ⅱ区 SK7	貯蔵	土

第7表 樹種同定結果

分類群・器種	弥生					中世										近世										合計
	土器		石器		不明	土器		石器		土器		石器		土器		石器		土器		石器		その他				
	土	石	土	石		土	石	土	石	土	石	土	石	土	石	土	石	土	石	土	石					
針葉樹																										
ヒノキ																										
アスナロ																										
スギ																										
広葉樹																										
カンナ																										
ヤマブ																										
ノリウツギ																										
その他																										
タヌキ																										
合 計	4	5	1	6	10	1	1	12	52	1	1	17	1	2	1	23	1	2	1	1	1	144				

第8表 時期別・器種の種類構成

・ヤマブ *Morus australis* Poiret クワ科クワ属

環孔材。孔部は3~5列、孔部外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2~4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。小径の道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~6細胞幅、1~50細胞高。

・ノリウツギ *Heteromalla paniculata* (Siebold) H. Ohba et S. アジサイ科ノリウツギ属

散孔材。道管は単独または2~3個が複合して散在する。道管の穿孔板は階段穿孔、壁孔は階段状となる。放射組織は異性、1~3細胞幅、1~30細胞高で、時に上下に連結する。

・タケ亜科 subfam. Bambusoideae イネ科

原生木部の小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に篩部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成する。維管束は柔組織中に散在し不斉中心柱をなす。

木製品等には合計7分類群が認められた。各分類群の材質等についてみると、ヒノキは山地・丘陵地に生育する常緑高木であり、木材は割裂性と耐水性が高い。アスナロは、石川県では変種のヒノキアスナロが分布している。アスナロ（ヒノキアスナロ）は山地等に生育する常緑高木であり、木材は割裂性と耐水性が高い。スギは、沖積地等の適湿地に生育する常緑高木であり、木材は割裂性と耐水性が比較的高い。広葉樹のカツラ、ヤマグワ、ノリウツギは、河畔等に生育する落葉高木または落葉小高木、ヤマグワの木材は重硬で強度と耐朽性が高い。ノリウツギの木材も比較的重硬・緻密で強度が高い。一方、カツラの木材は、軽軟で強度と保存性は低い。

樹種同定を実施した木製品は、弥生時代、中世、近世の3時期に分かれる。時期別・器種別の種類構成を第8表に示す。弥生時代の木製品は工具4点（棒）、建築部材等5点（板）、その他・用途不明1点（妻板か舷開板）があり、全てスギに同定された。同様の器種にスギが多い結果は、八日市地方遺跡（小松市）や、西任田遺跡・中ノ庄遺跡（能美市）でも報告されている（伊東・山田、2012；能城ほか、2016；小林，2021）。

中世の木製品は、工具6点（棒）、容器11点（曲物、漆器碗）、調理・調度品13点（箸、折敷）、建築部材等52点（井戸部材）、その他・用途不明1点（下駄）がある。工具、建築部材、その他・用途不明は全てスギであり、分割加工を施す製品を中心にスギの多用が推定される。同様の結果は、白江梯川遺跡（小松市）、漆町遺跡（小松市）、西任田遺跡・中ノ庄遺跡でも報告されている（伊東・山田、2012；バリノ・サーヴェイ株式会社，2012；小林，2021）。容器は、曲物の底板、側板、箍と漆器碗とがある。曲物は、スギを中心として、他に側板にヒノキが1点認められる。スギの多い結果は、工具や建築部材と同様の傾向といえる。ヒノキは、スギと同様に分割加工に適した材質の木材であり、スギと共に利用されたことが推定される。周辺では、荒木田遺跡（小松市）、白江梯川遺跡、漆町遺跡、大長野 A 遺跡で中世の曲物について樹種同定を実施した例があり、スギとヒノキの利用が認められる（伊東・山田，2012；株式会社古環境研究所，2014；株式会社パレオ・ラボ，2014a）。資料数は少ないが、スギとヒノキが混在する結果は、今回の結果とも整合的である。漆器碗は広葉樹のカツラに同定され、加工性の高い木材の利用が推定される。周辺では、白江梯川遺跡、佐々木アサバタケ遺跡（小松市）、漆町遺跡、西任田遺跡・中ノ庄遺跡で挽物碗・皿の樹種同定が実施されており、ケヤキ、ブナ属、トチノキ、ケンボナシ属が報告されている（伊東・山田，2012；小林，2021）。カツラは、既存の報告例では確認されていないが、材質的にはトチノキに近い利用例と考えられる。調理・調度品は、全て箸であり、スギを中心にヒノキやノリウツギが混じる組成が確認された。スギやヒノキの利用は、容器の利用状況と似ている。箸は小片でも製作可能であり、建築部材や容器などの木製品加工時に生じる端材等を利用した可能性がある。一方、ノリウツギは、端材の他に小径木も著しく利用していたことを示す可能性がある。ノリウツギは、周辺では八日市地方遺跡の弥生時代中期とされる矢柄や木鋸、野本遺跡（能美市）の弥生時代中期とされる櫛の歯に確認された例があるが、中世の事例は確認できない。今回の結果は、中世におけるノリウツギの利用例としても注目される。

近世の木製品は、容器19点（曲物、結桶、箱）、調理・調度品3点（箸、折敷）、建築部材等28点（井戸部材、柱、杭、板）、祭祀具1点（舟形）がある。建築部材のうち、井戸部材（縦板）や板材は全てスギに同定され、中世と同様の用材選択が継続したと考えられる。一方、柱はヤマグワであり、強度が高く腐りにくい木材が利用されたと考えられる。容器は、いずれも板状の部材であり、全てスギに同定された。曲物や桶にスギが利用される結果は、中世と同様である。調理・調度品では、箸がスギ、折敷がスギとアスナロに同定された。また、祭祀具の舟形はスギに同定された。これらは、いずれも加工性の高い木材が利用されたことが推定される。中嶋（2018）によれば、室町時代に大鋸と台鉋が

伝わったことにより、割りにくかった木材の利用が広がり、桶、樽、櫃の普及など、生活環境に大きな変化をもたらしたとされる。今回の結果をみると、近世の資料でもスギの利用が多く、大鋸が普及した後も中世と同様の用材選択が継続していたことが推定される。一方、同じ梯川左岸に位置し、本遺跡に近接する大川遺跡（小松市）では、17世紀中頃以降とされる木製品類にスギと共にアスナロが多く含まれており、スギとアスナロの利用量がほぼ同数である（株式会社パレオ・ラボ、2014b）。また、梯川の上流にあたる白江梯川遺跡では、19世紀の木製品について樹種同定が実施されているが、円形板や折敷にスギのほか、トウヒ属、ヒノキ属、マツ族複雑管束亜属が認められ、本遺跡や大川遺跡とも違った用材傾向を示している（バリノ・サーヴェイ株式会社、2012）。遺跡によって樹種構成が異なる結果は、遺跡の立地や遺構の性格等によって用材選択が異なる可能性を示す結果として注目される。

2. 種実同定、花粉分析

土壌試料は、Ⅲ区 SK9の土壌2点である。分析の便宜上、仮1、仮2と付している。種実同定は2点、

分類群	部位	状態	仮1	仮2	備考
草本種実					
オモダカ科	種子	完形	-	1	
エノコログサ属	果実	完形	1	-	
		破片	-	4	
イネ	籾(基部)	破片	24	40	
		炭化	2	7	
	籾	破片	26	53	1mm以上
		炭化	2	4	1mm以上
	玄米	破片	-	2	
イネ科(メシバ類?)	果実	破片	-	2	
イネ科	果実	完形	-	1	
		破片	-	4	
イヌタデ近似種	果実	完形	2	1	
		破片	5	1	
ミドリハコベ近似種	種子	破片	-	1	
ナデシコ科(ウシハコベ?)	種子	完形	-	1	
アカザ属	種子	完形	296	60	
		破片	26	15	
アカザ属・ヒユ属	種子	完形	9	-	
ヒユ属	種子	完形	5	5	
		破片	3	2	
アブラナ科	種子	完形	-	1	割れている
キジムシロ類	核	完形	2	-	
エノキグサ	種子	破片	2	-	
シソ属・イヌコウジュ属	果実	完形	42	31	長さ1.3~1.8mm
		破片	34	14	
トウバナ属	果実	完形	1	-	
ナス	種子	破片	-	3	残存幅3.5mm
ナス属	種子	完形	119	27	長さ1.5mm,幅1.8mm程度
		破片	6	4	
ゴマ	種子	破片	-	1	
オミナエシ属	果実	完形	-	1	
草本種実合計			607	286	合計893個
不明					
不明		完形	-	1	イノコズチ属果実?
		破片	1	-	
不明炭化物		破片	-	4	
木材					
炭化材			++	++	
植物片			+	+	
虫類			+++	+++	
岩片類			+	+	
分析量			50	50	容積(cc)
			60.2	64.6	湿度(g)

注[+]：少量、[++]：中量、[+++]：多量。

第9表 種実同定結果

花粉分析は1点(仮1)を分析する。土壌試料から種実遺体を分離抽出するために、試料を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後、試料を大きな粒径から順に双眼実体顕微鏡で観察し、同定が可能な種実遺体をピンセットで抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本や中山ほか(2010)、鈴木ほか(2018)等を参考に実施し、部位・形態別の個数を数えて、結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフオンで結んで表示する。また、各分類群の写真を添付して同定根拠とする。種実遺体以外は、一覧表の下部に定性的な量比をプラス「+」で示す。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液浸保存する。

種実同定の結果を第9表に示す。2試料100ccを洗い出した結果、草本19分類群(オモダカ科、エノコログサ属、イネ、イネ科(メヒシバ類?)、イネ科、イヌタデ近似種、ミドリハコベ近似種、ナデシコ科(ウシハコベ?)、アカザ属、ヒユ属、アブラナ科、キジムシロ類、エノキグサ、シソ属-イヌコウジュ属、トウバナ属、ナス、ナス属、ゴマ、オミナエシ属)893個の種実遺体が抽出同定された。2個と不明炭化物4個は同定ができなかった。種実遺体以外は、木材、炭化材、植物片、虫類、岩片類等が確認され、植物片が多い。種実遺体の出土個数は、仮1が607個、仮2が286個である。仮1が多く、アカザ属322個とナス属125個の多産に特徴づけられる。種実遺体の保存状態は、一部のイネが炭化している以外は良好である。栽培植物は、イネの穂の破片143個、炭化した穂の破片15個、炭化した玄米の破片2個と、ナス3個、ゴマ1個が確認された。栽培植物を除いた分類群は、草本のみから成り、エノコログサ属、イネ科(メヒシバ類?)、イネ科、イヌタデ近似種、ミドリハコベ近似種、ナデシコ科(ウシハコベ?)、アカザ属、ヒユ属、アブラナ科、キジムシロ類、エノキグサ、シソ属-イヌコウジュ属、ナス属、オミナエシ属などの中生植物(湿生植物と乾生植物の中間の性質をもち、適潤な立地に生育する植物)主体の組成を示す。水湿地生植物は少なく、抽水~湿生植物のオモダカ科、湿生植物のトウバナ属が確認される程度である。

栽培植物を含む分類群は、エノコログサ属(アワ)、イネ科(ヒエ等)、アカザ属(アカザ、シロザ等)、ヒユ属(ヒユ)、アブラナ科、シソ属(シソ、エゴマ等)-イヌコウジュ属、ナス属(ナス)、シソ属-イヌコウジュ属などが挙げられるが、出土種実は野生種との厳密な区別が困難である。例えば、シソ属-イヌコウジュ属は121個確認され、果実の長さは1.3~1.8mmを測る。シソ属には、栽培種で軟実のエゴマと、硬実のシソのほか、硬実の雑草型エゴマがあり、雑草型エゴマの果実の大きさはエゴマとシソの中間型を示す(新田, 2001)。笠原(1982)の基準によれば、長さ1.4~1.5mm、幅1.1~1.2mmをシソ、長さ2.0~2.8mm、幅1.8~2.5mmをエゴマとされる。また、シソ属と野生種のイヌコウジュ属の果実の大きさの変異も連続的である。

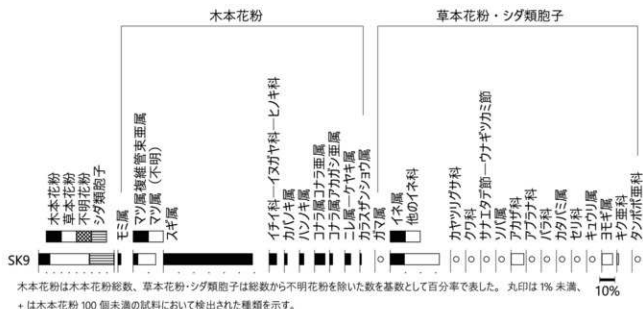
花粉分析は試料約10gについて、水酸化カリウムによる腐植

種 類	
木本花粉	
モミ属	2
マツ属(雄花束至属)	3
マツ属(不明)	12
スギ属	59
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	5
カバノキ属	2
ハンノキ属	3
コナラ属コナラ至属	7
コナラ属アカガシ至属	2
コシノキ属	4
カラスザンショウ属	1
草本花粉	
ゴマ属	1
イネ属	63
他のイネ科	159
カヤツリグサ科	3
クワ科	1
サナエタデ節-ウナギツカミ節	3
ソバ属	1
アカザ科	58
アブラナ科	6
バウ科	2
カタバミ属	1
ゼリ科	1
キュウリ属	1
ヨモギ属	49
キク亜科	8
タンポポ亜科	1
不明花粉	
不明花粉	3
シダ類胞子	
ゼンマイ属	1
他のシダ類胞子	220
合 計	
木本花粉	100
草本花粉	358
不明花粉	3
シダ類胞子	221
合計(不明を除く)	679

第10表 花粉分析結果

酸の除去、0.25mmの篩による篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下で、同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdtman (1952, 1957)、Faegri&Iversen (1989) などの花粉形態に関する文献や、島倉 (1973)、中村 (1980)、藤木・小澤 (2007)、三好ほか (2011) 等の邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図（第10表・第245図）として表示する。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。花粉化石の保存状態はやや不良である。木本花粉は低率である。木本花粉の中では、スギ属が木本花粉全体の約60%を占める。その他、マツ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属が検出される。草本花粉の割合は高い。その中でもイネ科の割合が高く、栽培種であるイネ属を含む。その他の栽培種はソバ属が検出される。その他アブラナ科、ヨモギ属が検出される。

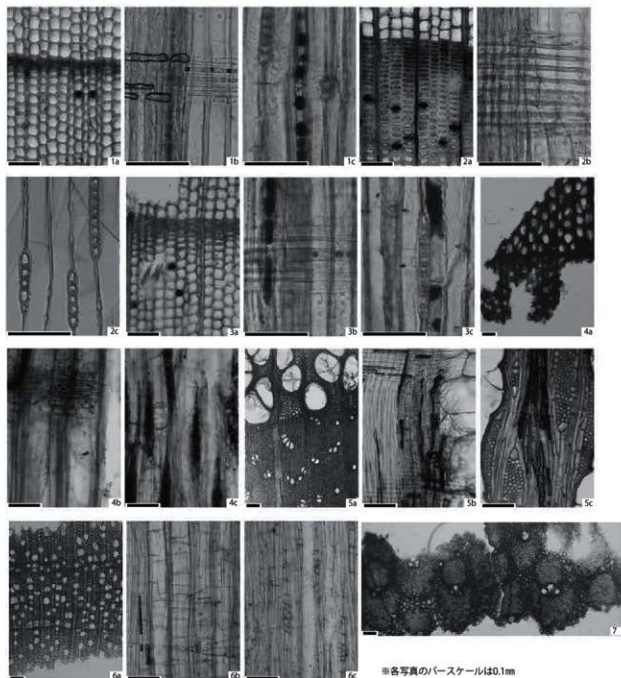


第245図 花粉化石群集

種実遺体は草本類のみ、花粉化石も草本類が圧倒的に多い。このことから遺跡周辺は開発により草地化していたと思われる。なお、木本花粉では、スギ属が多く、次いでマツ属が多い。これらは風媒花で花粉生産量が多いため、多量に飛散し、かつ遠くまで散布される。このことから、スギやマツは、遠くの植生を反映し、遺跡付近に生育していたのでいなかったと思われる。

検出された種実のうち栽培植物は、イネの糠、玄米、ナス、ゴマである。花粉化石ではイネ属とソバ、キュウリ属である。これらは、近辺で栽培された、もしくは持ち込まれて利用された植物質食料と示唆される。なお、イネ属の花粉は花の構造上イネ糠の中に多く残存することから、検出されたイネ属花粉は稲糠由来の可能性がある。また、イネの糠の一部と玄米は炭化していること、花粉分析の残渣中にイネ科由来の微粒炭が認められることから、稲糠等のイネ科が燃やされた可能性がある。

栽培植物を除いた草本種実、エノコログサ属、イネ科（メヒシバ類?）、イネ科、イヌタデ近似

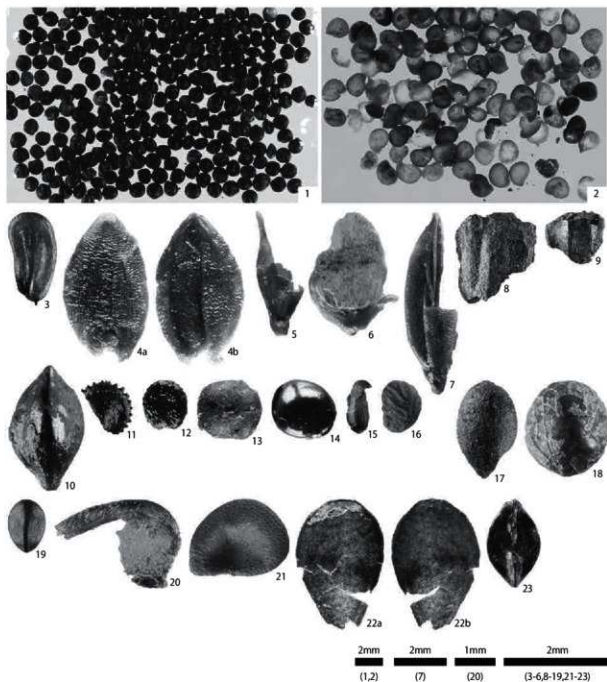


※各写真のバースケールは0.1mm

- 1.ヒノキ(管理番号1610) 5.ヤマグワ(管理番号1550)
 2.スギ(管理番号1471) 6.ノリウツギ(管理番号1559)
 3.アスナロ(管理番号1575) 7.タケ亜科(管理番号1547) 横断面
 4.カツラ(管理番号1599) a: 木口, b: 柱目, c: 板目

第246図 木材

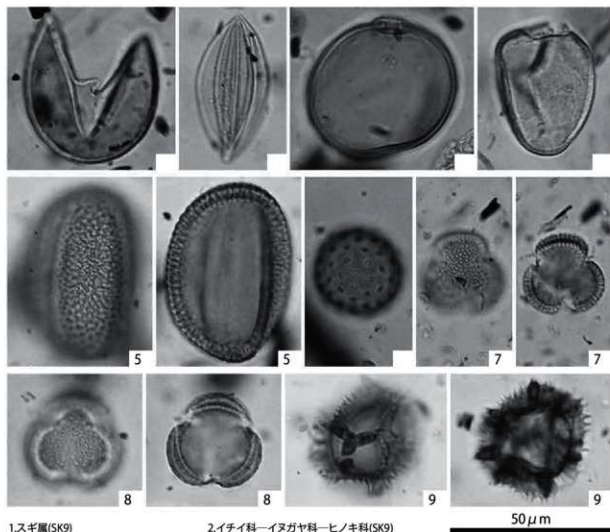
種ミドリハコベ近似種、ナデシコ科（ウシハコベ?）、アカザ属、ヒユ属、アブラナ科、キジムシロ類、エノキグサ、シソ属 - イヌコウジュ属、ナス属、オミナエシ属などの中生植物を主体とし、抽水～湿一部に水湿地の存在もうかがえる。生植物のオモダカ科、湿生植物のトウバナ属を少量含む。これらは花粉化石と重複する分類群が多い。このことから、当時は開発が進んだ明るく開けた、やや乾いた草地環境であったと推測された。



- 1.アカザ属 種子(SK9;飯1)
- 3.オモダカ科 種子(SK9;飯2)
- 5.イネ科(メヒシノ類?) 果実(SK9;飯2)
- 7.イネ 粉(基部)(SK9;飯2)
- 9.イネ 玄米(Ⅲ)(SK9;飯2)
- 11.ミドリハコベ近似種 種子(SK9;飯2)
- 13.アカザ属 種子(SK9;飯1)
- 15.アブラナ科 種子(SK9;飯2)
- 17.エノキグサ 種子(SK9;飯1)
- 19.トウバナ属 果実(SK9;飯1)
- 21.ナス属 種子(SK9;飯1)
- 23.オミナエシ属 果実(SK9;飯2)

- 2.ナス属 種子(SK9;飯1)
- 4.エノコログサ属 果実(SK9;飯1)
- 6.イネ科 果実(SK9;飯2)
- 8.イネ 玄米(SK9;飯2)
- 10.イヌタデ近似種 果実(SK9;飯1)
- 12.ナデシコ科(ウシハコベ?) 種子(SK9;飯2)
- 14.ヒユ属 種子(SK9;飯1)
- 16.キジムシロ類 核(SK9;飯1)
- 18.シソ属 - イヌコウジュ属 果実(SK9;飯1)
- 20.ナス 種子(SK9;飯2)
- 22.ゴマ 種子(SK9;飯2)

第 247 図 種実遺体



1. スギ属(SK9)
3. イネ属(SK9)
5. ソバ属(SK9)
7. ヨモギ属(SK9)
9. タンポポ属(SK9)

2. イチイ科—イタガヤ科—ヒノキ科(SK9)
4. カヤツリグサ科(SK9)
6. アカザ科(SK9)
8. アブラナ科(SK9)

第248図 花粉化石

3. 石質同定

試料は、石核、砥石、石鋸、玉（未成品）、玉製素材を中心とした石器、石製品の合計198点である。時代別では、弥生時代は、石鏃（未成品）2点、剥片1点、くさび形石器1点、すり石1点、敲石4点、横刃形石器1点、太型蛤刃石斧4点、打製石斧1点、柱状片刃石斧1点、磨製石斧2点、定角式磨製石斧1点、磨製穿孔具1点、石核38点、石針（素材）1点、石針（未成品）4点、石針石核6点、石針素材3点、砥石14点、石包丁5点、石包丁・石鋸素材1点、石鋸12点、石鋸素材1点、硯石・砥石1点、製玉素材4点、管玉1点、玉1点、玉（角柱体）1点、玉（未成品）33点、玉仕上砥石1点、玉製素材16点、軽石1点、中世は、砥石7点、片口石針1点、切石3点、石針2点、石鋸2点、炉石5点、炉石？2点、行火2点、行火？1点、行火蓋2点、石材1点、中近世は、切石2点、炉石2点、時代不明は、砥石4点、砥石？1点、硯石・砥石1点である。石質同定は、野外用ルーペを用いて行い、石材表面の鉱物や組織を観察して、五十嵐（2006）にもとづき、肉眼で判定できる範囲の岩石名や鉱物名を付した。なお、正確な岩石名および鉱物名の同定には、岩石薄片作成や蛍光X線分析などを併用するが、今回は肉眼による同定

分析 番号	報告 番号	地区	出土遺物等	標識	石材	分析 番号	報告 番号	地区	出土遺物等	標識	石材
1	519	甲区	SK20	石核	緑色凝灰岩	65	1374	甲区	SD11	硝石	流紋岩質凝灰岩
2	1182	甲区	旧河道	石核	緑色凝灰岩	66	1364	甲区	SD11	石礫	紅土片岩
3	1192	甲区	旧河道	くまび形石核	新凝灰質安山岩	67	1375	甲区	SD11	硝石	黒雲母流紋岩
4	1185	甲区	旧河道	石核	新凝灰質安山岩	68	532	甲区	SK12	石礫	緑色片岩
5	1180	甲区	旧河道	石核	碧玉	69	338	甲区	SK9	硝石	黒雲母流紋岩
6	526	甲区	SK8	玉（未成品）	緑色凝灰岩	70	1614	甲区	SD54	石針（素材）	燐塩
7	525	甲区	SK5	玉（未成品）	緑色凝灰岩	71	1582	甲区	SD41	玉（未成品）	碧玉
8	1193	甲区	旧河道	硝石	黒雲母流紋岩	72	1583	甲区	SD41	石針石核	燐塩
9	1361	甲区	SD11	玉（未成品）	碧玉	73	1608	甲区	SD40	玉（未成品）	碧玉
10	528	甲区	SK11	玉（未成品）	碧玉	74	1609	甲区	SD40	玉（未成品）	碧玉
11	529	甲区	PS8	玉（未成品）	碧玉を伴う流紋岩	75	769	甲区	SD38	玉（未成品）	緑色凝灰岩
12	527	甲区	PS8	玉（未成品）	緑色凝灰岩	76	768	甲区	SD38	玉（未成品）	碧玉
13	522	甲区	SK9	玉（未成品）	碧玉	77	1562	甲区	SD39	玉（未成品）	碧玉
14	520	甲区	SK9	石核	碧玉	78	1559	甲区	SD39	石核	碧玉
15	523	甲区	SK9	玉（未成品）	緑色凝灰岩	79	1445	甲区	SD11	石核	碧玉
16	524	甲区	SK9	玉（未成品）	碧玉を伴う流紋岩	80	1446	甲区	SD11	石核	碧玉
17	1360	甲区	SD11	玉（未成品）	変質凝灰岩	81	1438	甲区	SD11	石核	碧玉
18	1362	甲区	SD11	玉（未成品）	緑色凝灰岩	82	1447	甲区	SD11	石核	碧玉
19	1363	甲区	SD11	玉（未成品）	碧玉	83	1448	甲区	SD11	石核	碧玉
20	1359	甲区	SD11	玉（未成品）	碧玉	84	1451	甲区	SD11	玉（角柱体）	碧玉
21	1358	甲区	SD11	石核	緑色凝灰岩	85	1439	甲区	SD11	石核	碧玉
22	1365	甲区	SD11	硝石	流紋岩質凝灰岩	86	1452	甲区	SD11	石針石核	玉礫
23	1357	甲区	SD11	石核	碧玉	87	1449	甲区	SD11	石核	碧玉
24	1370	甲区	SD11	玉（未成品）	碧玉	88	1453	甲区	SD11	石針石核	玉礫
25	1371	甲区	SD11	玉（未成品）	碧玉	89	1440	甲区	SD11	石核	碧玉
26	1368	甲区	SD11	玉（未成品）	碧玉	90	1450	甲区	SD11	石核	碧玉
27	1367	甲区	SD11	石核	緑色凝灰岩	91	1561	甲区	SD39	石核	碧玉
28	1372	甲区	SD11	玉（未成品）	碧玉	92	1560	甲区	SD39	石核	碧玉
29	1369	甲区	SD11	玉（未成品）	碧玉	93	1615	甲区	SD54	石礫（未成品）	頁岩
30	1373	甲区	SD11	玉（未成品）	緑色凝灰岩	94	764	甲区	SK45	石核	緑色凝灰岩
31	535	甲区	包含層	石針（未成品）	燐塩	95	771	甲区	SK29	石針石核	玉礫
32	534	甲区	包含層	石針（未成品）	玉礫	96	763	甲区	SK35	石核	緑色凝灰岩
33	530	甲区	包含層	玉（未成品）	碧玉	97	765	甲区	SK4	石核	碧玉
34	531	甲区	包含層	玉（未成品）	碧玉	98	770	甲区	P190	石針石核	頁岩
35	1181	甲区	旧河道	石核	緑色凝灰岩	99	762	甲区	SE9	石核	碧玉
36	1179	甲区	旧河道	玉（未成品）	碧玉を伴う凝灰岩	100	761	甲区	SE1	石核	碧玉
37	1186	甲区	旧河道	玉（未成品）	凝灰岩を伴う碧玉	101	767	甲区	SE1	石核	碧玉
38	1178	甲区	旧河道	石核	緑色凝灰岩	102	766	甲区	包含層	石核	碧玉
39	1187	甲区	旧河道	玉（未成品）	碧玉	103	760	甲区	包含層	石核	緑色凝灰岩
40	1188	甲区	旧河道	玉（未成品）	碧玉	104	759	甲区	包含層（中世面）	石核	碧玉を伴う流紋岩
41	1190	甲区	旧河道	玉（未成品）	碧玉	105	757	甲区	包含層	石核	碧玉
42	1183	甲区	旧河道	石核	緑色凝灰岩	106	758	甲区	包含層（中世面）	石核	碧玉
43	1191	甲区	旧河道	玉（未成品）	緑色凝灰岩	107	1454	甲区	SD11	定角式磨製石斧	輝石安山岩
44	1184	甲区	旧河道	石核	碧玉	108	775	甲区	包含層	磨製穿孔具	流紋岩質凝灰岩
45	1189	甲区	旧河道	石針（未成品）	玉礫	109	1567	甲区	SD39	硝石	流紋岩質火山礫凝灰岩
46	533	甲区	遺物群集	石針（未成品）	玉礫	110	1566	甲区	SD39	硝石	安山岩
47	521	甲区	SK9	石核	碧玉を伴う流紋岩	111	1443	甲区	SD11	石針素材	柱状流紋岩
48	391	甲区	SK5	伊石	輝石火山礫凝灰岩	112	1584	甲区	SD41	硝石	砂岩
49	402	甲区	SK12	伊石	火山礫凝灰岩	113	1441	甲区	SD11	硝石	砂岩
50	537	甲区	包含層	石包丁	輝石安山岩	114	777	甲区	SE9	硝石・硝石	流紋岩質凝灰岩
51	323	甲区	SI1	伊石	輝石凝灰角礫岩	115	1563	甲区	SD39	石礫	紅土片岩
52	1366	甲区	SD11	磨製石斧	流紋岩質火山礫凝灰岩	116	1564	甲区	SD39	石礫	緑色片岩
53	392	甲区	SK5	石礫	輝石火山礫凝灰岩	117	1565	甲区	SD39	硝石	硝石
54	393	甲区	SK5	行火	輝石火山礫凝灰岩	118	1444	甲区	SD11	硝石	砂岩
55	1376	甲区	SD11	石包丁	輝石安山岩	119	781	甲区	SE1	硝石	黒雲母流紋岩
56	442	甲区	包含層	石礫	輝石火山礫凝灰岩	120	782	甲区	包含層（中世面）	柱状片石斧	緑色凝灰岩
57	443	甲区	包含層	行火	流紋岩質凝灰岩	121	783	甲区	包含層（中世面）	石包丁	頁岩
58	536	甲区	SK17	磨製石斧	安山岩	122	772	甲区	包含層（中世面）	石礫	緑色片岩
59	444	甲区	包含層	行火	流紋岩質凝灰岩	123	779	甲区	P128	硝石	流紋岩
60	397	甲区	SK8	片口石礫	流紋岩質凝灰岩	124	780	甲区	包含層（中世面）	硝石	流紋岩
61	419	甲区	P1	行火？	流紋岩質凝灰岩	125	773	甲区	包含層（中世面）	石礫	紅土片岩
62	322	甲区	SI1	伊石	輝石火山礫凝灰岩	126	778	甲区	SE9	硝石	流紋岩質凝灰岩
63	321	甲区	SI1	伊石	輝石火山礫凝灰岩	127	776	甲区	P197	石包丁・石礫素材	流紋岩
64	337	甲区	SK9	石礫	硝石	128	774	甲区	包含層（中世面）	石礫	流紋岩

第11表 石質同定（肉眼鑑定）結果（1）

分析 番号	報告 番号	地区	出土遺構等	図解	石材	分析 番号	報告 番号	地区	出土遺構等	図解	石材
129	299	Ⅱ区	SD1	石針石椁	瑪瑙	166	219	Ⅰ区	SD36	玉製素材	碧玉
130	1061	Ⅱ区	SD2	石椁	碧玉	167	887	Ⅰ区	SD35	玉製素材	緑色凝灰岩
131	1090	Ⅱ区	SD2	石椁	碧玉	168	889	Ⅰ区	SD35	玉製素材	碧玉
132	1110	Ⅱ区	SK1	打製石斧	輝石安山岩	169	888	Ⅰ区	SD35	玉製素材	緑色凝灰岩
133	1093	Ⅱ区	SD2	玉製素材	碧玉を伴う珪化流紋岩	170	211	Ⅰ区	SD36	石鏡（未成品）	頁岩
134	1097	Ⅱ区	SD2	碧玉素材	碧玉	171	221	Ⅰ区	SD36	玉製素材	碧玉
135	1092	Ⅱ区	SD2	玉製素材	碧玉	172	890	Ⅰ区	SD35	玉製素材	碧玉
136	1094	Ⅱ区	SD2	玉製素材	碧玉を伴う緑色凝灰岩	173	218	Ⅰ区	SD36	玉製素材	碧玉
137	1098	Ⅱ区	SD2	石針素材	碧玉	174	859	Ⅰ区	SD37	大型蛇刀石斧	内関石デイスサイト
138	1099	Ⅱ区	SD2	瑪瑙形石椁	内関石デイスサイト	175	210	Ⅰ区	SE15	大型蛇刀石斧	花崗閃岩
139	1100	Ⅱ区	SD2	石椁丁	粘板岩	176	151	Ⅰ区	P151	切石	輝石火山礫凝灰岩
140	1101	Ⅱ区	SD2	緑石	玉髄	177	109	Ⅰ区	SE14	切石	輝石火山礫凝灰岩
141	240	Ⅱ区	SK1	行火	輝石火山礫凝灰岩	178	857	Ⅰ区	SD37	玉仕上切石	砂岩
142	229	Ⅱ区	SE1	伊石?	流紋岩質火山礫凝灰岩	179	893	Ⅰ区	SD35	緑石	デイスサイト
143	303	Ⅱ区	SE1	緑石	玄雲凝灰岩	180	892	Ⅰ区	SD35	石鏡	雲母片岩
144	1096	Ⅱ区	SD2	石鏡	雲母片岩	181	894	Ⅰ区	SD35	緑石	流紋岩質凝灰岩
145	1102	Ⅱ区	SD2	サツ石	流紋岩質火山礫凝灰岩	182	225	Ⅰ区	SD36（副）	石鏡	雲母片岩
146	230	Ⅱ区	SE1	伊石?	流紋岩質凝灰岩	183	891	Ⅰ区	SD35	石鏡	石炭片岩
147	964	Ⅱ区	田河通	緑石	流紋岩	184	858	Ⅰ区	SD37	緑石	流紋岩質凝灰岩
148	1095	Ⅱ区	SD2	石鏡	石炭片岩	185	895	Ⅰ区	SD35	緑石	砂岩
149	965	Ⅱ区	田河通	石椁丁	粘板岩	186	45	Ⅰ区	カワラケ集会所	緑石	流紋岩
150	302	Ⅱ区	SK3	玉	碧玉	187	149	Ⅰ区	P88	緑石?	砂岩
151	226	Ⅰ区	遺構調査	石針素材	無斑晶質安山岩	188	101	Ⅰ区	SE6	緑石	黒雲母流紋岩
152	212	Ⅰ区	遺構調査	銅片	無斑晶質安山岩	189	213	Ⅰ区	SK20	緑石	黒雲母流紋岩
153	215	Ⅰ区	堀	玉製素材	碧玉	190	112	Ⅰ区	SK20	緑石	黒雲母流紋岩
154	222	Ⅰ区	包倉庫（中世国）	玉製素材	碧玉	191	113	Ⅰ区	SK21	緑石	流紋岩質凝灰岩
155	223	Ⅰ区	包倉庫（中世国）	玉製素材	碧玉を伴う緑色凝灰岩	192	15	Ⅰ区	SI3	緑石	流紋岩質凝灰岩
156	220	Ⅰ区	包倉庫（中世国）	玉製素材	緑色凝灰岩	193	224	Ⅰ区	P115	碧玉	碧玉
157	217	Ⅰ区	カクラン	玉製素材	碧玉	194	74	Ⅳ区	SD11	緑石	流紋岩質凝灰岩
158	209	Ⅰ区	SD36?	大型蛇刀石斧	緑色岩	195	75	Ⅱ区	SE1	石鏡素材	流紋岩
159	107	Ⅰ区	SE14	石鏡	輝石火山礫凝灰岩	196	73	Ⅱ区	SD1	緑石	流紋岩質凝灰岩
160	108	Ⅰ区	SE14	切石	輝石火山礫凝灰岩	197	394	Ⅰ区	SD35	大型蛇刀石斧	玄武岩
161	110	Ⅰ区	SE14	石材	輝石火山礫凝灰岩	198	1442	Ⅰ区	SD36	緑石・緑石	砂岩
162	855	Ⅰ区	SD37	玉製素材	碧玉	199	300	Ⅱ区	SK5	伊石	デイスサイト質輝石火山礫凝灰岩
163	856	Ⅰ区	SD37	玉製素材	緑色凝灰岩	200	301	Ⅱ区	SK5	伊石	火山礫凝灰岩
164	216	Ⅰ区	SD36	玉製素材	碧玉	201	896	Ⅱ区	PS	切石	輝石火山礫凝灰岩
165	886	Ⅰ区	SD35	玉製素材	碧玉	202	214	Ⅰ区	SE5	切石	流紋岩質凝灰岩

第11表 石質同定（肉眼鑑定）結果（2）

に留めるため、鑑定された名称は、概查的な岩石名もしくは鉱物名であることに留意されたい。

石質同定結果を試料の詳細とともに第11表に示す。代表的な岩石および鉱物の写真を第249図に示す。

半深成岩類の花崗斑岩1点、火山岩類の黒雲母流紋岩7点、流紋岩7点、碧玉を伴う流紋岩4点、角閃石デイスサイト2点、デイスサイト1点、輝石安山岩4点、安山岩2点、無斑晶質安山岩4点、玄武岩1点、火山砕屑岩類の流紋岩質凝灰岩16点、流紋岩質結晶凝灰岩1点、碧玉を伴う凝灰岩1点、火山礫凝灰岩2点、流紋岩質火山礫凝灰岩4点、デイスサイト質軽石火山礫凝灰岩1点、軽石火山礫凝灰岩13点、軽石凝灰角礫岩1点、軽石1点、堆積岩類の砂岩7点、頁岩4点、変成岩の類緑色岩1点、変質凝灰岩2点、緑色凝灰岩23点、碧玉を伴う緑色凝灰岩2点、珪化流紋岩1点、碧玉を伴う珪化流紋岩1点、変成岩類の粘板岩2点、石英片岩2点、雲母片岩3点、紅簾片岩3点、緑色片岩3点、鉱物の滑石1点、凝灰岩を伴う碧玉1点、碧玉61点、瑪瑙4点、玉髄8点に鑑定された。

岩石の大分類別に、時代別使用傾向を概観する。管玉の製作に伴う石製品が多い弥生時代は、半深成岩類、変成岩類、変質岩類および鉱物の使用が顕著である。中世から中近世、および時代不明については、石鉢、埴石、行火などが出土しており、それらは軽石火山礫凝灰岩および火山礫凝灰岩などの火山砕屑岩類の使用が顕著である。全ての時代を通じて、火山岩類、堆積岩類が使用される傾向を

示す。

園町遺跡周辺は、梯川とその支流の合流地点付近に位置するため、梯川流域の地質に由来する石材は、容易に入手できると考えられる。遺跡近傍の大河川である手取川流域の河床礫も利用されたであろう。梯川流域および手取川流域の地質については、粕野（1993）や、鹿野^{ほか}（1999）に概略が示されている。梯川流域上流域には、三疊紀の飛騨花崗岩類、白亜紀の手取層群が分布する。飛騨花崗岩類は、花崗岩～花崗閃緑岩類、手取層群は砂岩および泥岩を主岩相としている。これらを新第三紀の安山岩溶岩・同質火砕岩からなる岩相層が被覆する。このほか、鮮新世の大日山火山を給源とする安山岩・デイサイト溶岩・火砕岩が分布している。梯川中流域には、流紋岩・デイサイト質火砕岩からなる医王山層が分布している。梯川下流域には、高位段丘堆積物および中段段丘堆積物が分布する。手取川流域において基盤をなす最も古い地質は、三疊紀の飛騨花崗岩類である。主に上流域に分布し、花崗岩類を主岩相とし、片麻状を呈する花崗岩類を特徴的に含む。飛騨花崗岩類は上流域において中期ジュラ紀～前期白亜紀の手取層群に広く覆われている。手取層群は砂岩および泥岩を主体とする堆積岩類から構成されている。手取層群は、中部ジュラ系～白亜系からなる地層で、手取川ダム周辺およびその上流域に分布している。岩相は頁岩、砂岩、礫岩が主体で、一般に堅硬な岩石となっている。礫岩および砂岩には、日本では産出の少ない珪岩が人頭大～こぶし大で稀に含まれるという特徴がある。手取川上流域には、後期白亜紀～古第三紀晩新世に活動した流紋岩・デイサイト質の火砕岩を主とする濃飛流紋岩や太美山層群も分布する。中～上流域においてはこれらの様々な地質を覆って、漸新世～前期中新世の流紋岩～安山岩溶岩・火砕岩を主とする地質が分布している。特に前期中新世に堆積した岩相層は広い分布面積を示す。中～下流域においてはさらに前期中新世の流紋岩溶岩・火砕岩を主要岩相とする医王山層相当層（以下、医王山層）が広く分布している。金沢平野に面する斜面では医王山層を覆い、砂岩・泥岩などの堆積岩類や、凝灰岩などの火山砕屑岩類からなる前期中新世の砂子坂層、七曲凝灰岩層、朝ヶ屋泥岩層、下荒屋凝灰岩層、犀川層などが分布する。第四紀火山としては、手取川最上流部に安山岩・デイサイト溶岩・火砕堆積物を主体とする白山火山、同じく安山岩・デイサイト溶岩・火砕堆積物を主体とする戸室山が分布している。

以上の地質背景を踏まえて、弥生時代、中世、中近世および時代不明ごとに、推定される産地について記述する。半深成岩類の花崗斑岩は、太型蛤刃石斧に使用される。石英、カリ長石および斜長石斑晶を含み、細粒完晶質である。大日川流域に小規模に分布する花崗岩体由来と考えられる。火山岩類は、黒雲母流紋岩、流紋岩、碧玉を伴う流紋岩、角閃石デイサイト、デイサイト、輝石安山岩、安山岩は、医王山層や岩相層由来する石材であり、在地性の石材である。無斑晶質安山岩は、ややガラス質であり、新第三紀岩相層の安山岩類や、能登半島に分布する穴水層の安山岩など、石川県下で採取された可能性がある。石川県外では、長野県、群馬県、岐阜県、鳥取県下にも無斑晶質安山岩の産出が知られており、遠方の産地からの移入も考慮する必要がある。太型蛤刃石斧に1点のみ使用される玄武岩は、局所的にドレリティック組織を示す岩相である。産地の判定は困難である。火山砕屑岩類の火山礫凝灰岩、流紋岩質火山礫凝灰岩、流紋岩質凝灰岩、流紋岩質結晶凝灰岩、軽石火山礫凝灰岩、軽石凝灰角礫岩は、含有する火山礫や火山灰の量比によって岩石名が異なるものの、梯川中流域に分布する医王山層相当層、梯川上流域に分布する岩相層、手取川上流域の後期白亜紀～古第三紀晩新世に活動した濃飛流紋岩や太美山層群に由来すると考えられる。軽石は発泡や不良で、白色を帯びる。孔隙が長軸方向にやや引き伸ばされており、含有する鉱物は視認できない。最大長や遺跡の地理的位置を考慮すると漂着軽石の可能性もある。現時点では、給源となる火山は特定できない。堆積岩類の砂岩は堅硬緻密な古期砂岩であり、アレナイト質で、手取川水系の手取層群

に由来する石材と判断される。頁岩も古期の岩相を示しており、砂岩と同様に、在地性の石材が利用されたものと推定される。変成岩類の粘板岩は、劈開のよく発達した岩相を示す。一部、風化した雲母鉱物を微量程度伴うなど、ややホルンフェルスに類似した岩相を示す石材も認められる。遺跡周辺には分布しない石材であり、割れやすい性状を考慮すると、河床礫としては入手し難く、遠隔地から移入されたと推測される。粘板岩は、遠方の産地としては近畿地方に分布するベルム系の舞鶴層群に由来する可能性がある。石籠に使用される紅簾片岩、緑色片岩は、石川県下に分布が認められない。遠方よりの移入品と推測される。三波川帯の結晶片岩類に産出する岩石の可能性もある。石英片岩および雲母片岩は、やや細粒で片理の発達が良好である。岩相からは、飛騨外縁帯の片麻岩の可能性も残されており、今後の検討が重要である。変質岩の緑色岩は、太型蛤刃石斧に使用されている。緑色岩は周辺では産出しない石材であり、産地不明である。より詳細な岩石の分析を行う必要があるが、岩相は変質安山岩の可能性もあり、その場合、岩瘤累層などに由来する在地性の石材とみることができ。緑色凝灰岩および珪化流紋岩は、緑色～灰緑色を帯びることが多く、変質や珪化作用を被っているため、碧玉を伴うことがある。鉱物の滑石は、中世の石鍋に使用されている。日本国内では蛇紋岩体に伴って産する鉱物で、石川県下において蛇紋岩の分布は認められないため、搬入品と解される。蛇紋岩を伴う地質体は、飛騨外縁帯がある。飛騨外縁帯は、石川県周辺では、富山県・長野県県境の白馬岳周辺や新潟県糸魚川市などに分布する。碧玉は、碧玉は、塊状緻密な玉髄で、主に酸化鉄を不純物として含む。一般に緑色種を碧玉と呼び、赤色のものは赤玉石（あるいは赤玉、鉄石英）と呼ばれる。同定対象の碧玉の大部分は緑色～濃緑色を示す。碧玉の原産地としては、小松市の滝ヶ原地域が遺跡近傍に認められる。塚脇¹³⁸（2021）によれば、碧玉は貫入岩類として、凝灰岩類もしくは流紋岩に貫入している。石質同定の対象とした一部の碧玉は、玉髄や脈石英を伴うことがある。玉髄および瑪瑙は、顕微鏡的微晶の石英の網目状集合体で、前者は塊状で、後者は同心円状構造、帯状、縞状の模様を有する。岩石中の空隙を熱水が流動する過程で、非晶質あるいはごく微粒子の珪酸鉱物が飽和に達して沈殿したものである。一般に流紋岩の晶洞や変質部などに産する鉱物である。

4. 放射性炭素年代測定

試料は、中世の井戸Ⅲ区 SE3（SK9）から出土した井戸枠側板材4点で、いずれも年輪が200本以上ある柁目板である。いずれも樹皮はついていない。中世の暦年較正曲線は鋸歯状になっている箇所があり、年代値がその付近にあると、年代幅が大きくなる。そこで、ウイグルマッピングを用いた年代値の絞り込みを行う。試料は井戸材のうち、最外部に近い年輪（白太）が残っていると思われる2点（報告番号 No. 348・355）を選択する。

試料は200年輪を超える柁目板のため、木口面で樹心から外側に向かって年輪を数える。樹心側と外側からそれぞれ約3年輪分にあたる試料を採取し、年代測定試料とする。

試料は、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA：Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、¹⁴C の計数、



1.781 IV区 排土山 磁石 黒雲母流紋岩



2.1165 III区 C10・E3 旧河道 石核 無斑晶質安山岩



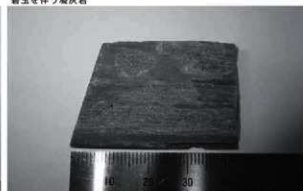
3.107 I区 B16・N10・E2 SE14 石林
軽石火山噴凝灰岩



4.1179 III区 C10・E3 旧河道 玉(未成品)
碧玉を伴う凝灰岩



5.1444 IV区 B9 SD11 敲石 砂岩



6.1095 II区 B15 SD2 石曜 紅廉片岩



7.216 I区 A16 SD36 (堀) 玉製素材 碧玉



8.1452 IV区 C8 SD11 石針石核 玉髓

第249図 岩石・鉱物

^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局 (NIST) から提供される標準試料 (HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA-C6等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1) の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma: 68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正・ウイグルマッチング用に一桁目まで表した値も記す。

結果を第12表に示す。分析試料はいずれも保存状態が良く、定法での処理が可能で、年代測定に必要な炭素量が回収できている。同位体補正を行った年代値は、No. 348 1-3年が $1185 \pm 20\text{BP}$ 、No. 348 234-237年が $940 \pm 20\text{BP}$ 、No. 355 1-3年が $1175 \pm 20\text{BP}$ 、No. 355 215-218年が $925 \pm 20\text{BP}$ である。暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線

試料名	年輪	方法	補正年代 BP (暦年較正用)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代										Code No.	
					年代値											確率%
348	1-3 (内)	AAA (1M)	1185±20 (1184±21)	-25.02 ±0.37	σ	cal AD 778	-	cal AD 787	1172	-	1163	cal BP	10.1	YU- 16779	pal- 14331	
						cal AD 828	-	cal AD 885	1122	-	1065	cal BP	58.2			
						cal AD 772	-	cal AD 893	1178	-	1057	cal BP	94.1			
						cal AD 933	-	cal AD 940	1017	-	1011	cal BP	1.4			
						cal AD 1044	-	cal AD 1054	907	-	897	cal BP	8.6			
	234-237 (外)	AAA (1M)	940±20 (938±21)	-24.16 ±0.36	σ	cal AD 1075	-	cal AD 1106	907	-	844	cal BP	24.2	YU- 16780	pal- 14332	
						cal AD 1118	-	cal AD 1156	832	-	794	cal BP	35.5			
						cal AD 1036	-	cal AD 1160	914	-	790	cal BP	95.4			
						cal AD 776	-	cal AD 787	1174	-	1163	cal BP	12.3			
						cal AD 828	-	cal AD 890	1123	-	1060	cal BP	56.0			
355	1-3 (内)	AAA (1M)	1175±20 (1174±21)	-24.49 ±0.36	σ	cal AD 772	-	cal AD 793	1178	-	1158	cal BP	16.3	YU- 16781	pal- 14333	
						cal AD 800	-	cal AD 896	1150	-	1055	cal BP	69.4			
						cal AD 924	-	cal AD 950	1027	-	1000	cal BP	9.8			
						cal AD 1047	-	cal AD 1084	904	-	866	cal BP	36.0			
						cal AD 1095	-	cal AD 1102	855	-	848	cal BP	5.2			
	215-218 (外)	AAA (1M)	925±20 (927±21)	-24.05 ±0.24	σ	cal AD 1124	-	cal AD 1160	826	-	790	cal BP	27.1	YU- 16782	pal- 14334	
						cal AD 1036	-	cal AD 1171	915	-	779	cal BP	95.4			
						cal AD 776	-	cal AD 787	1174	-	1163	cal BP	12.3			
						cal AD 828	-	cal AD 890	1123	-	1060	cal BP	56.0			
						cal AD 772	-	cal AD 793	1178	-	1158	cal BP	16.3			

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付いた誤差は、測定誤差 σ (測定値の68.2%が入る範囲) を年代値に換算した値。

4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。

5) 暦年の計算には、Oxcal v4.4を使用。

6) 暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。

7) 較正データセットはIntCal20を使用。

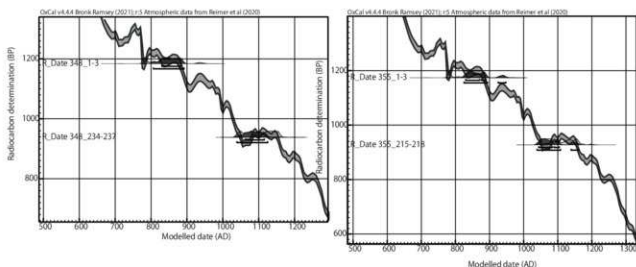
8) 較正曲線や較正プログラムが改訂された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

9) 統計的に真の値が入る確率は、 σ が68.2%、 2σ が95.4%である。

第12表 放射性炭素年代測定結果

		較正年代(calAD)									モデリング年代(calAD)								
		σ			2σ						σ			2σ					
		from	to	%	from	to	%	m		from	to	%	from	to	%				
348 最外年輪	1-3	1063	1115	68.3	1039	1125	95.4	1085		830	882	68.3	806	892	95.4				
		778	787	10.1	772	893	94.1												
		828	885	58.2	933	940	1.4												
	234-237	1044	1053	8.6	1036	1160	95.4			1063	1115	68.3	1039	1125	95.4				
		1075	1106	24.2															
355 最外年輪	1-3	1044	1084	52	1039	1108	83.8	1075		830	870	52	825	894	83.8				
		1090	1104	16.3	1139	1161	11.6												
		776	787	12.3	772	793	16.3												
		828	890	56	800	896	69.4												
					924	950	9.8												
	215-218	1047	1084	36	1036	1171	95.4			1044	1084	52	1039	1108	83.8				
		1095	1102	5.2															
		1124	1160	27.1															

第13表 ウイグルマッチング結果



第250図 ウィグルマッチング結果

強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（ ^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を校正することによって、暦年代に近づける手法である。暦年校正ならびにウィグルマッチング法に用いるソフトウェアは、OxCal 4.4 (Bronk, 2009)、校正曲線はIntCal20 (Reimer et al., 2020)である。樹木の伐採年代に近い最外年輪の 2σ 値は、No. 348がcalAD1036~1160、No. 355がcalAD1036~1171である。

ウィグルマッチング法とは、年輪を持った樹木試料の放射性炭素年代測定に対し、校正曲線のウィグルを応用して年代値の絞り込みを行うものである (Bronk et al., 2001)。暦年校正ソフトであるOxCal (Bronk, 2009)では、ベイズ推定によるモデリングを行うことによって、 ^{14}C ウィグルマッチングのためのモデルを作成することが可能である。OxCalのリファレンスマニュアルによれば、典型的な ^{14}C ウィグルマッチングの場合、年輪試料を10年毎に測定し、かつ測定試料に樹皮が確認されたとき、10年輪毎に分割した最終ブロックの年代から約5年後が樹木試料の伐採年代とされる。モデリング年代（第13表）を 2σ の値でみると、No. 348がcalAD1039~1125、No. 355がcalAD 1039~1161となり、最外輪年代だけ測定するより、値の幅が狭い。

中世の校正曲線は、AD1300~1400年、AD1500~1600年付近など鋸歯状になる部分があるため、このような時代にあたと最外輪年代の測定のみでは校正年代の幅が広くなる。そのため、今回はウィグルマッチング法によるモデリングを試みた。その結果、No. 348、No. 355ともにモデリングによる年代幅は最外輪年代の測定のみの場合と比較してやや狭くなったが、大きく変わっていない。これは、図に示すように校正曲線が大きな鋸歯状ではない時期であったことが原因である。ただし、今回の結果をみると、モデリング年代の中央値（第13表にmとして記述）が10年ほどしか変わらないことや最外輪の測定年代も近いことから、ほぼ同時期に伐採された（もしくは同じ原木から切り出された）板材の可能性がある。

引用文献(第4章)

- 五十嵐俊雄 2006 『考古資料の岩石学』 バリノ・サーヴェイ株式会社
- 伊東隆夫 1995 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ』 『木材研究・資料』 31 京都大学木質科学研究所 81-181頁
- 伊東隆夫 1996 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ』 『木材研究・資料』 32 京都大学木質科学研究所 66-176頁
- 伊東隆夫 1997 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ』 『木材研究・資料』 33 京都大学木質科学研究所 83-201頁
- 伊東隆夫 1998 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ』 『木材研究・資料』 34 京都大学木質科学研究所 30-166頁
- 伊東隆夫 1999 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ』 『木材研究・資料』 35 京都大学木質科学研究所 47-216頁
- 伊東隆夫・山田昌久(編) 2012 『日本の考古学 出土木製品用材データベース』 海青社
- 鹿野和彦・原山 智・山本博文・竹内 誠・宇都浩三・駒沢正夫・広島俊男・須藤定久 1999 『20万分の1地質図幅「金沢」地質図幅 地質調査所
- 株式会社古環境研究所 2014 『大長野 A 道路出土木製品の樹種同定1』 『大長野 A 道路』 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター 131-137頁
- 株式会社パレオ・ラボ 2014a 『大長野 A 道路出土木製品の樹種同定2』 『大長野 A 道路』 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター 138-141頁
- 株式会社パレオ・ラボ 2014b 『大川道路出土木材の樹種同定』 『大川道路』 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター 301-311頁
- 笠原安夫 1982 『鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状塊について』 『鳥浜貝塚1980年度発掘調査概報・研究の成果-縄文前期主とする低湿地道路の調査2-』 福井県教育委員会 65-87頁
- 船野 義典 1993 『石川県地質誌-新版・石川県地質図(10万分の1)説明書-』 石川県・北陸地質研究所
- 小林克也 2021 『出土木製品の樹種同定』 『西田道路、中ノ庄道路』 北陸新幹線建設事業(金沢・敦賀間)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書3 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター 197-206頁
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』 地球社
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文 2018 『草木の種子と果実-形態や大きさが一目でわかる734種 増補改訂-』 誠文堂新光社
- 塚脇真二・岡田隆司・田知清英・作本達也・櫻田 誠 2021 『石川県小松市松ヶ原碧玉原産地道路周辺地域の地質』 『日本海城研究』 52巻 1-11頁
- 中嶋尚志 2018 『木の国の歴史 -縄文から江戸への木の文化を探る-』 里文出版
- 中山至夫・井之口希寿・南谷忠志 2010 『日本植物種子図鑑(2010年改訂版)』 東北大学出版会. 678p.
- 中村 純 1980 『日本産花粉の標識 I II (図版)』 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録. 第12, 13集.
- 新田みのり 2001 『シソとエゴマの分化と多様性』 『栽培植物の自然史-野生植物と人類の共進化-』 北海道大学図書刊行会 165-175頁
- 能城修一・佐々木由香・村上由美子 2016 『八日市地方道路から出土した木製品類の樹種』 『八日市地方道路』 II 石川県小松市教育委員会 217-242頁
- 能城修一・山本直人・小岩直人・安中哲徳・増永祐介・白田義彦 2018 『小松市園町道路と大領道路における自然科学分析』 『石川県埋蔵文化財情報』 第39号 (公財)石川県埋蔵文化財センター
- 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2012 『白江梯川道路から出土した木製品の樹種』 『白江梯川道路』 IV 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター 72-75頁
- 藤木利之・小澤智生 2007 『琉球列島産植物花粉図鑑』 アクアコーラル企画
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子 2011 『日本産花粉図鑑』 北海道大学出版会
- Bronk RC. 2009. Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.
- Bronk RC, Plicht J., & Weninger B. 2001. Wiggle matching¹ radiocarbon dates. Radiocarbon, 43, 381-389.
- Erdtman G. 1952. Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology). Almqvist & Wiksells 539p.
- Erdtman G. 1957. Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II). Almqvist & Wiksells 147p.
- Fægri K. & Iversen J. 1989. [Textbook of Pollen Analysis] The Blackburn Press 328p.
- Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes
- P., Guilderson T., Hajdas L., Heaton T., Hogg A., Hughes K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Buenger U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S. 2020. The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal BP). Radiocarbon, 62, 1-33.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社
- Stuiver M. & Polach A.H. 1977. Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社

第5章 総 括

第1節 遺構の変遷（第1面：中世～近世）

中世の能美平野には、東に得橋郷、北に郡家荘、中央に能美荘、西に南・北白江荘などが立地しており（室山2010）、当遺跡のある岡町は梯川を南北の境界とする南白江荘に属する。文永5年（1268）に延暦寺東塔額として初見するが、第1面における遺構の初現もその時期に近い。当地はその後天台妙法院門跡等の管轄にはいるが、白江荘を開発本領とする白江一族が古くより武士団を形成し、当荘における在地領主等の地位を継承していたようである（平凡社1991）。また、時期は不明ながら戦国時代には新たに南白江新荘が成立しており、当地での活動が16世紀代にまで及ぶことを示唆している。

ここでは遺構の変遷を主に土師器皿の出土様相等によって推測し（第251図）、Ⅰ期（13世紀後半～14世紀）、Ⅱ期（15～16世紀）、Ⅲ期（17世紀）の3段階を設定した（第252図）。南北約110m、東西約5～10mの調査区内には、掘立柱建物、竪穴建物、井戸、土坑、溝等からなる中世村落在り（Ⅰ・Ⅱ期）、Ⅲ期では遺構密度は低い、17世紀代の井戸や溝等を確認している。なお、白江荘の荘域として梯川北の北白江荘では松梨遺跡（第5図6）、御館遺跡（7）、銭畑遺跡（8）、長田南遺跡（10）、梯川南の南白江荘では漆町遺跡（30）、白江梯川遺跡（16）、大川遺跡（23）等が展開し、近世では大川遺跡、小松城跡（24）等で岡町周辺遺跡の所在及び様相が確認・報告されている。

Ⅰ期（13世紀後半～14世紀）

遺跡の盛期であり14世紀代を主体とする。Ⅰ区検出の桁行柱間の狭いSB1、Ⅲ・Ⅳ区で井戸側の縦板組横枕留に隅柱を伴うSE3（SK9）・SE8等については、やや古手とみられる土師器皿B類の共伴等から13世紀後半以降とした。14世紀代では東西に軸をもつ区画溝SD20（Ⅰ区）、SD3（Ⅱ区）、SD5（Ⅲ区）、SD32・23（Ⅳ区）が南北を区切る。竪穴建物は縦板組・曲物水溜井戸とのセットで、①SI3・SE1（Ⅰ・Ⅱ区）、②SI2・SE1（Ⅲ区）、③SI4・SE7（Ⅳ区）を構成するが、①、③では南北に隣接する区画溝SD3、SD32・23が意識され、②・③間の空閑地には建て替えを伴う掘立柱建物SB2・3が配置された可能性がある。

こうした大型遺構を伴わない建物配置や陶磁器食器類の乏しさからは当地における荘園有力者の姿はみえてこない。ただし、武家儀礼を背景とした土師器皿の一括廃棄行為が、Ⅰ（SI3・カワラケ集中）・Ⅲ（SE1（SI11））・Ⅳ（SI4・SE7）区等の複数箇所でも継続的に認められることなどから、ここでは当期における居住者として、南白江荘の白江氏に連なる下級武士層を想定しておきたい。

Ⅱ期（15～16世紀）

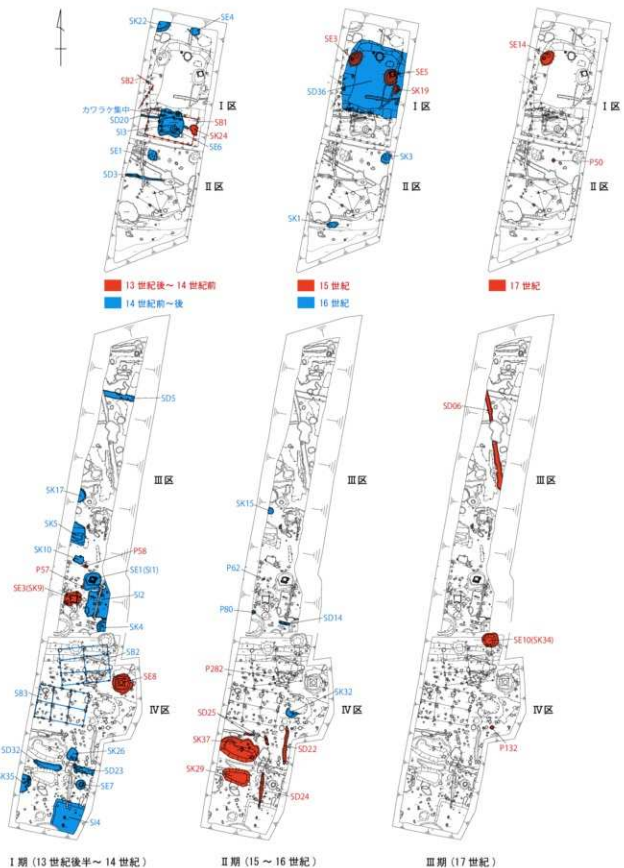
Ⅰ期に比べ遺構・遺物量共に激減しⅠ・Ⅳ区にはほぼ集中するが、Ⅱ・Ⅲ区上面の削平が遺構の有無に影響を及ぼしている可能性もある。15世紀代のⅠ区遺構はいずれもSD36に切られる。結桶積のSE3、円形縦板組のSE5が該当し、SE5・SK19からは口径68.2cmの完形に復元可能な越前焼大甕が出土する。甕片が多出する井戸横のSK19に据えられていた可能性もあるか。また、Ⅳ区南端ではL字状に屈曲する区画溝SD22・24・25内に大型土坑SK29・37が配置される。SD24・SK37からは土器類以外に銅製紅皿や鉄釘が出土しており、作業場的な空間としての位置付けも考えられようか。

続く16世紀代は京都系土師器皿E・F類の出土を目安とした。遺構の分布は散発的である。Ⅰ区には堀状遺構SD36が広がるが、幅約9.6m、深さ約1mと館の堀割とするには巨大すぎよう。土層断面では規模を縮小しながら何度か掘り直されたようにもみえ、ここでは水利等に伴う大型の溝状あるい

- A類：加賀地方で12世紀代に出現する在地系土師器皿の系譜を引く最も一般的なタイプ。口縁部に一段の横ナデを施し、口縁端部に大きな変化はみられない。底部は平底と丸底の両者がある。法量は大・小を基本とするが、口径6cm台の小型品も一定量認められる。今回出土した土師器皿の大半を占める。
- B類：口縁部に一段の横ナデを施し、口縁端部を面取りするタイプ。ただし今回は、端面取りが不明瞭でタイプの形態化が進む個体が大半を占める。法量は大・小を基本とする。
- C類：口縁部に一段の横ナデを施す。体部は比較的短く屈曲・外反し、口縁端部に大きな変化はみられない。法量は大・小を基本とする。
- D類：口縁部は外反し、体部下半には横ナデによる稜を持つ。器形は全体的に歪むものが多く、底部は平底風となる。小型品では短い体部を内傾気味に立ち上げるなど大型品の相似形とはならず、タイプとしての器形を抽出しづらい。法量は大・小を基本とする。
- E類：口縁部に一段の横ナデを施す。体部の開きは大きく、口縁部は外反気味に立ち上がる。薄手で端正な製品がみられる。京都系土師器皿。
- F類：外底面中央を押し上げる、いわゆる「へそ皿」。京都系土師器皿。

	A類	B類	C類	D類	E類	F類
13世紀後半 ?	 I 区 981-2	 Ⅱ 区 983-329				
14世紀前半	 Ⅱ 区 9831-664	 Ⅱ 区 983-333				
	 Ⅱ 区 9831-667	 I 区 9806-126				
14世紀前半 ?	 Ⅱ 区 514-550		 Ⅱ 区 514-545			
	 Ⅱ 区 514-559		 Ⅱ 区 514-542	 Ⅱ 区 514-546		
	 Ⅱ 区 505-412		 Ⅱ 区 514-564	 Ⅱ 区 514-585		
中葉 ?	 I 区 513-9			 Ⅱ 区 514-609		
14世紀後半	 I 区 513-4			 Ⅱ 区 514-617		
	 I 区 9799集中-38					
	 I 区 9799集中-32					
	 I 区 9799集中-20					
15世紀	 Ⅱ 区 9833-689					
	 Ⅱ 区 1022-697					
	 Ⅱ 区 9839-712					
16世紀					 Ⅱ 区 981-227	 Ⅱ 区 9815-403
					 Ⅱ 区 9814-418	 Ⅱ 区 983-241
					 Ⅱ 区 9799-246	
					 Ⅱ 区 9832-669	

第251図 土師器皿の分類・変遷案



第252図 第1面遺構変遷案 (S=1/500)

は落ち込み状遺構と推定しておきたい。出土遺物は13世紀後半～16世紀代と雑多で量は少ない。

Ⅲ期（17世紀）

上面削平のため遺構数は少ないが、寛永16年（1639）以降の小松城下整備に伴うとみられる17世紀代の居住跡を確認した。当地は小松城にも近く、寛永19年（1642）の「小松侍帳」によると、園村には五百石未満～百石以上5名、百石未満1名、与力衆2名の計8名の藩士が配置されている（小松市1999）。今回の調査では居住区の構成等を明らかにすることはできなかったが、約300m西には北国街道が南北に貫通するなど、城下中核域の一面としての位置付けも想定されようか。（藤田）

第2節 遺構の変遷（第2面：弥生時代）

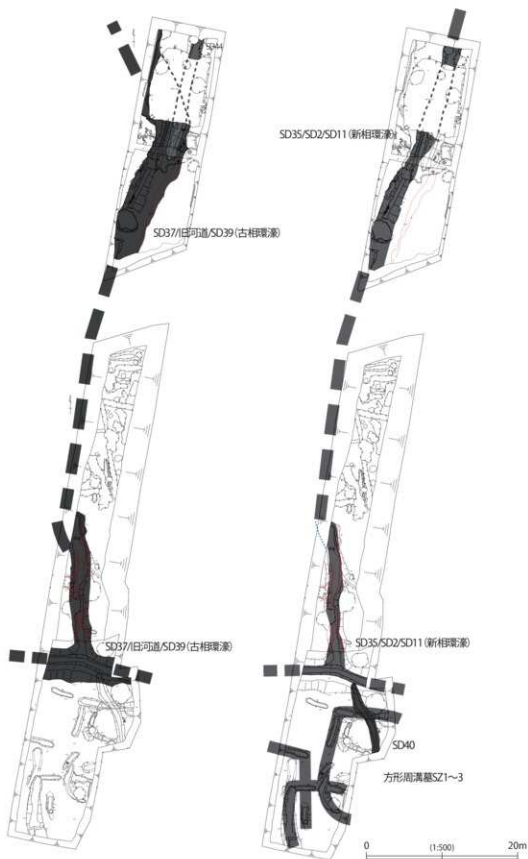
園町遺跡は、調査当時から南に約1km離れた弥生時代の大規模環濠集落である八日市地方遺跡との関係性を指摘されてきた。遺構としては調査区を縦断して流れる環濠（旧河道）・方形周溝墓の周溝部分という、いわば集落本体の外側を調査したことになるため、具体的な遺跡の動態や規模などは不明である。ここでは、検出された2時期の環濠に含まれる土器から、環濠の変遷を追うこととした（第253～255図）。なお、集落本体が確認できていないため、集落を囲繞する「環濠」という語句はいささか不適切かもしれないが、土器の入り方や規模などから環濠と表現しておく。

弥生時代中期前葉（八日市地方遺跡4・5期） I区SD37・44からは縄文時代晩期と考えられる土器片が散発的に出土するが、I区SD37/Ⅱ・Ⅲ区旧河道/Ⅳ区SD39（以下「古相環濠」とする）から定量出土する矢木ジワリ式の条痕文土器が遺跡の開始期と考えられる。条痕文系壺は東海地方の影響が強く、跳上文967や大ぶりの波状文1401がある。口縁部突帯786は少なく、受口状口縁が主体で短いものから長いものに変化する。後半では櫛描文と融合する258などがある。能登地方から791などが搬入されている。櫛描文系は短頸壺748などがある。甕は西日本系のくの字口縁（752・1591）やハケ調整のみ831がある。逆し字状口縁911は内外面ともハケ後ミガキ調整である。在地の深鉢は、1613・159や指頭沈線文の能登産787が少量確認される。条痕文深鉢の器形と調整を継承する櫛描文系甕824がある。古相環濠は調査区北西側から緩やかに蛇行する旧河道を利用したもので、Ⅱ区以南はほぼ新相の環濠（以下「新相環濠」とする：I区SD35/Ⅱ区SD2/Ⅲ区SD11/Ⅳ区SD37）とオーバーラップする。具体的に古相→新相への切り替えがいつ起きているのかは筆者の能力を超えているが、I区SD37の重なっていない箇所土器の様相を見ると、櫛描文でも直線文主体のシンプルな壺甕類が多く見られることから、5期前後を一つの目安とすることができよう。このI区SD37に切られる最古層の溝SD44の具体的な時期は不明であるが、出土する縄文晩期の深鉢784と対応させるかは一考を要する。なお能代は2019で実施された、I区SD36の溝底（基盤層）から採取された自然木片資料の炭素14年代は3,335～3,103cal BC（校正年代）であり、縄文時代中期前半には小松沿岸部の地形形成が終了していたとする能代氏等の推測と矛盾しない。八日市地方遺跡からも縄文時代後期～晩期の土器片が出土していることから、何らかの活動が始まっていたのであろうか。Ⅳ区まで南下していた旧河道は、Ⅲ区とⅣ区の境にある東西溝SD11に接続する。SD11の下層からは同様に矢木ジワリ式の土器が出土することからも、南北溝と同時併存していたと考えるのが自然であろう（ただし両溝の切り合い関係は明らかでない）。環濠外のⅣ区南半では該期の遺構は確認できていない。

弥生時代中期中葉（八日市地方遺跡6～8期） 古相環濠は5～6期前後で埋没し、新たに新相環濠I区SD35/Ⅱ区SD2/Ⅲ区SD11/Ⅳ区SD37が構築される。新相環濠はI区北側でSD37・SD35とはっきり別の流路として見えており、北西→南東へ緩くアールを取ったSD37から、北側から直線的に流

弥生時代中期前葉（八日市地方道跡4～5期）

弥生時代中期中葉以降（八日市地方道跡6期～）



第253図 第2面環濠等の変遷図 (S=1/500)

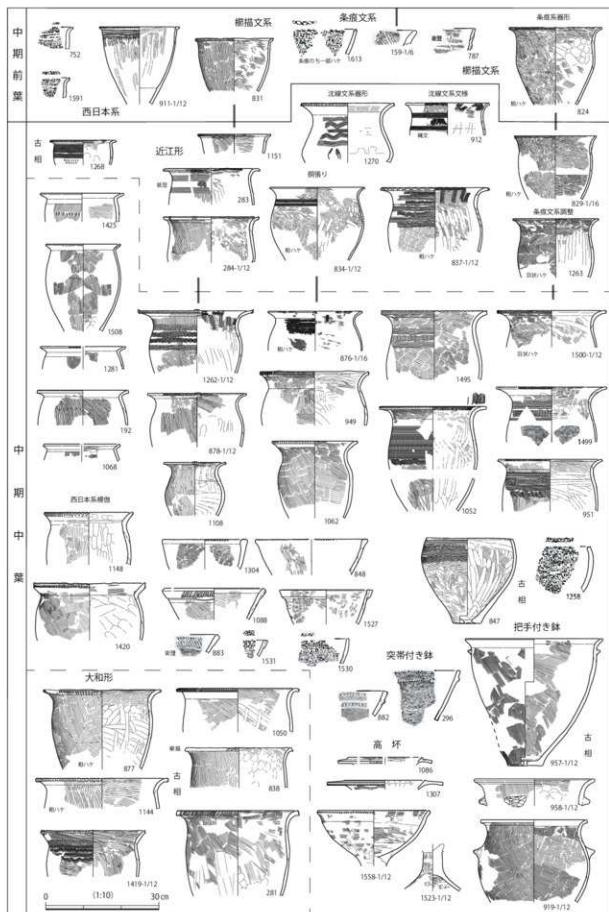
れるSD35への切り替えは、この時期に集落域がより北側に拡がったことを想起させる。新相環濠は溝幅1.1~2.4mと明らかに古相より狭く、また古相の流路から外れていないことなどが特徴としてあげられる。また古相も同様であるが、木製品がほとんど出土していないことや、豊富に出土する玉造り関係の石製品のひとつが石核や剥片などの未製品であることも見逃せない。この時期の土器は小松式を主体とする。古相(6期)では条痕文系は殆どなくなり、壺では条痕文系の羽状文様976・989や指頭押圧161や器形931を踏襲するものが少量存在する。沈線文系は工字状文947が最終であり、縄文を持つ1124などがある。櫛描文系では、太頸が多くて頸部上半から胴部上半まで櫛描文を連続施文する452・1230、頸部下半から胴部上半456・900、胴部上半1468がある。櫛描文の間を空ける266・812は少ない。受口状口縁は上半に櫛描文を持つ1125・1259や屈曲部に突起を持つ1012がある。器形は頸部が直立きみで胴部が張る系列812・266と胴部上半がなで肩の系列932がある。甕では、条痕文の系列を引く粗いハケ調整829・1263、沈線文的な器形1270や縄文912がある。文様は直線文・波状文を連続するものが多いが、縹状文1270もある。西日本系1268は短いく字状口縁で櫛描直線文3段と櫛描工具による刺突文を持つ。粗いハケで外面縦ハケ・口縁内面横ハケ調整する甕877・1144は大和形とした。胴部と頸部の差が少ない1050・281なども古相と思われる。波頂部に2本の刻みを持つ甕を近江形とし、頸部がゆるくて胴部の張は少ない283・284が古相と思われる。近江形とした甕は、押圧紋甕(小松市2016)だが園町遺跡では口縁部が面取りや受口状は出土していないので9期には下らないと考える。

中心時期では条痕文系は無くなり、受口状口縁として存在する。受口部に突起や刻みを持つ460・1126と持たない928があり、受口部が緩やかな袋状930・1221もある。受口部にはハケによる綾杉状文を持つものも多く、格子状文171は稀である。受口部が直立する1220・251は文様を入れていない。文様帯は古相の頸部上半からの施文が無くなり、頸部下半から胴部上半863・451が主体となる。櫛描文は複帯構成が基本で、文様のバリエーションも多くなる。最下段には扇形文451・1210も多くなる。西日本系壺では、口縁内面に貼付突帯1224、頸部に指凹貼付突帯256・450・747・897がある。口縁部上半に数条の貼付突帯を持ち、口唇部に施文する915は出雲・隠岐Ⅲ-1・2様式、1403は因幡・伯耆Ⅲ-2様式と出雲・隠岐Ⅲ-2様に類例がある(木耳社1992)。東海系996は付加沈線研磨手法なので貝田町式古段階、1009・261は沈線が欠落するので貝田町式新段階(石黒1994)であり、三者とも無文帯を研磨する。甕では、条痕文系の羽状ハケ1500は少ない。器形は胴部上半が張る876・949は多くなく、胴部の張りが少ないものが基本である。緩く外反する口縁が基本であり、外反度の少ない1419は古相の可能性があらう。口縁部内面には櫛描波状文1262、櫛描垂文876・1262、ハケの綾杉文1052・876がある。西日本系は、口縁部が長めで胴部上半が張り、胴部径が口縁部径を上回る。口唇部が丸い1508が多く、口唇部を面取りする192・1068は少ない。胴部最大径にハケの刻み1425と櫛状具の刻み192・1508がある。1148・1415は頸部内面がく字状だが、口唇部の形態・刻みや内面の調整が異なるので模倣土器と思われる。把手付き鉢は、八日市地方遺跡Ⅲ第134図では6期を主体に前後に確認され、それを基本とする975は5期以前、958は6期、919は7期の可能性があらう。8期の特徴である東海系細頸壺・く字甕の定量化・斜行短線文の増化をみてみたい。東海系1009・261と西日本系1403は8期で、く字甕の定量化も当てはまる。斜行短線文1229は直線文帯+斜行短線文:7期、1048は直線文+斜行短線文の交互:8期だが、斜行短線文の増加はみられない。

Ⅱ区SD2では一括廃棄されたような出土状況が認められ(第152図)、溝の西側に偏在することから、集落本体は西側に拡がるものと考えられる。Ⅳ区SD39南側には、方形周溝墓3基(SZ1~3)が切り合いながら存在する。出土する土器はこの時期のもので占められており、規模や形状も不明瞭である



第 254 図 弥生中期の土器 1



第255図 弥生中期の土器2

が中期中葉以降の所産としておく。

弥生時代中期後葉以降（八日市地方遺跡9期～） いわゆる凹線文系土器は新相環濠の中ではほとんど出土せず、この時期には集落が停滞していたことが推測される。八日市地方遺跡では集落構造の変容が認められる画期に当たるものの、その後急速に終焉を迎えることが報告されている。その後間隙を挟み、後期前半の描橋式がⅠ区第1面で、後期後葉～終末期の法仏式・月影式（ごく少量）が新相環濠内で見られ、Ⅲ・Ⅳ区では一定量出土する。遺跡内の最新の遺構であるⅣ区SD40からは月影式の寛1604が出土する。この時期以降の土器は確認できていないことから、遺跡（集落）は弥生時代終末期には終焉を迎えていたものと考えられる。（和田・久田）

参考文献

- 小松市教育委員会 2003『八日市地方遺跡Ⅰ』
 小松市教育委員会 2016『八日市地方遺跡Ⅱ』
 （公財）石川県埋蔵文化財センター 2022『小松市 八日市地方遺跡2』
 能城修一・山本直人・小岩直人・安中哲徳・増永佑介・白田義彦 2018「小松市園町遺跡と大領遺跡における自然科学分析」
 『石川県埋蔵文化財情報39』（公財）石川県埋蔵文化財センター
 久田正弘 2003「弥生時代における影響関係について」『石川県埋蔵文化財情報9』（財）石川県埋蔵文化財センター
 平凡社 1991『石川県の地名 日本歴史地名大系第17巻』
 宮下幸夫 1997「第3節 在地窯「加賀窯」」『中・近世の北陸 北陸中世土器研究会編』
 小松市 1999『新修 小松市史 資料編』小松城 新修小松市史編集委員会
 珠洲市教育委員会 2006『珠洲焼窯跡群—珠洲古陶関係遺跡発掘調査等事業—』
 藤澤良祐 2007『愛知県史 別編 産業2 中世・近世 瀬戸系』愛知県
 室山 孝 2010『能美平野の荘園』『国説 こまつ歴史』新修小松市史編集委員会
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2016『越前焼総合調査事業報告』
 滝川重徳 2019「金沢城跡・金沢城下の遺跡における土師器皿と陶磁器の様相」『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相
 一城下町とその周辺遺跡の土師器皿（かわらけ）を中心に—』（公財）石川県埋蔵文化財センター
 石黒達人 1994「時期区分をめぐって」『朝日遺跡Ⅴ』（財）愛知県埋蔵文化財センター
 木耳社 1992『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』



I区第1面 SB1 全景（東から）



I区第1面 SI3



I区第1面 SE3 曲物出土状況



I区第1面 SE5 井戸側検出状況



I区第1面 SK19 土器出土状況



I区第1面 SD36 全景 (南西から)



I区第1面 SD36 土層断面



Ⅱ区第1面 SD1・9土層断面



Ⅱ区第1面 SD3・4



Ⅲ区第1・2面 完掘状況（南東から）



Ⅲ区第1面 S12



Ⅲ区第1面 井戸SE1・SK9



Ⅲ区第1面 SE1



Ⅲ区第1面 SK5 遺物出土状況



Ⅲ区第1面 SD5 遺物出土状況



Ⅲ区第1面 SD5 土層断面



Ⅳ区第1面 完掘状況（北から）



IV区第1面 S86·7



IV区第1面 S14 土层断面



IV区第1面 S14



IV区第1面 SE8 土层断面



IV区第1面 SE8 曲物出土状况



IV区第1面 SK30 土层断面



IV区第1面 SD32·SK37 土层断面



IV区第1面 SD38 土层断面



I区第2面 SD35・37・44土層断面



II区第2面 SD2土層断面



II区第2面 完掘状況（北から）



II区第2面 旧河道土層断面



II区第2面 SK3土層断面



II区第2面 SD2 遺物出土状況



III区第2面 SD11



III区第2面 SD11 土層断面



Ⅲ区第2面 SD11 土層断面



Ⅲ区第2面 SD39 土層断面



Ⅲ区第2面 旧河道



Ⅲ区第2面 SK18 土層断面



Ⅲ区南～Ⅳ区第2面 完掘状況（北から）



Ⅳ区第2面 SD39 土层断面



Ⅳ区第2面 SK44



Ⅳ区第2面 完掘状况



Ⅳ区第2面 SD21 土层断面



Ⅳ区第2面 SD42 土层断面



Ⅳ区第2面 SD46・SK44 土層断面



Ⅳ区第2面 SD51 土層断面



Ⅳ区第2面 SD54 土層断面



Ⅳ区第2面 SD55 土層断面



Ⅳ区第2面 方形周溝墓群 (東から)



Ⅳ区第2面 方形周溝墓群 (西から)







I区 第1面出土遺物(3)



I 区·II 区 第 1 面出土物



Ⅱ区·Ⅲ区 第1面出土文物



Ⅲ区 第1面出土遺物 (2)



Ⅲ区 第1面出土文物(3)



Ⅲ区·Ⅳ区 第1面出土遗物



IV区 第1面出土文物(2)



IV区 第1面出土遺物(3)



I区 第2面出土遺物 (1)



I区 第2面出土遺物 (2)



I 区·II 区 第 2 面出土遗物



Ⅱ区 第2面出土遗物(2)



Ⅱ区·Ⅲ区 第2面出土文物



Ⅲ区 第2面出土遺物(2)



Ⅲ区 第2面出土遺物(3)



Ⅲ区 第2面出土遺物(4)



Ⅲ区・Ⅳ区 第2面出土遺物



IV区 第2面出土遺物(2)



IV区 第2面出土文物(3)

報告書抄録

ふりがな	こまつし そのまちいせき							
書名	小松市 園町遺跡							
副書名	北陸新幹線建設事業(金沢・敦賀間)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	12							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	和田龍介、久田正弘、藤田邦雄、増永祐介、バリノ・サーヴェイ(株)							
編集機関	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18-1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731							
発行機関	石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	令和7年3月21日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
園町遺跡	石川県 小松市 園町	17203	338900	36度 24分 50秒	136度 27分 14秒	20170412 ～ 20170731	1,280㎡	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
園町遺跡	集落・ その他の 墓	弥生	方形周溝墓、 土坑、環濠、 溝	弥生土器、木製品、 石製品		弥生時代中期の 環濠・方形周溝墓 を確認。		
	集落	中世 近世	掘立柱建物、 井戸土坑、溝	土師器、陶磁器、 木器、銅銭		室町時代の集落		
要約	園町遺跡は弥生時代中期および室町時代・近世の集落遺跡であり、縄文時代晩期から江戸時代の遺構・遺物を確認している。弥生時代は、遺跡を縦断して流れる河道(古相環濠)に中期初頭の土器が認められ、弥生時代中期中葉の小松式期に入ると河道(古相環濠)を再掘削して、集落を囲むと考えられる大型の溝(新相環濠)を再構築する。環濠の外側にあるⅣ区南側では、数基の方形周溝墓が営まれていた。これらの動態は、遺跡の南側約1kmに位置する弥生時代中期の拠点集落である八日市地方遺跡の活動と符合していることが注目される。 空白期を挟み13世紀後半～14世紀になると集落が形成されはじめ、掘立柱建物や竪穴建物、井戸などが該当する。16世紀代にはⅠ区の堀状遺構が掘削されると考えるが、共存する遺構は極めて少なく、続く17世紀代前半の前田利常による小松城・城下町の開発に伴って遺構・遺物が散見されるが、集落の縁辺部であろう。							

小松市 園町遺跡

発行日 令和7(2025)年3月21日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市糠月1丁目1番地
電話 076-225-1842(文化財課)

(公財)石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477

E-mail address daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 安達写真印刷株式会社

